



KANAGAWA NO KOUKOGAKU

Vol.25

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

CONTENTS

Project Team for Paleolithic Studies: Reconsideration of Kanto Loam classification at Isehara region Current status and future issues in the western Sagami River.....	1
Project Team for Jōmon Period Studies: A earthen figurine of Kanagawa	9
Project Team for Yayoi Studies: Study of pit dwellings in the Yayoi period (4).....	17
Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr.Naotada Akaboshi, A Pioneer of archaeological research in Kanagawa (17): A report of materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note"	29
Project Team for Nara and Heian Periods Studies: Ancient Buddhist related relics in Kanagawa (3)	35
Project Team for Medieval Age Studies: Remains of the medieval period in central Kanagawa (5).....	49
Project Team for Early Modern Age Studies: The corpus of structural remains of the road in the Early Modern Age (5)	59

March, 2020

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan

研究紀要 25

かながわの考古学

二〇二〇

公益財団法人 かながわ考古学財団

かながわの考古学

2020.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

かながわの考古学

2020.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

はじめに

1990（平成2）年11月に神奈川県埋蔵文化財センターより刊行された『かながわの考古学』第1集から、1995（平成7年）刊行同第5集までを引き継いで、1996（平成8）年に神奈川県立埋蔵文化財センターと財団法人かながわ考古学財団によって、新たに研究紀要Ⅰ「かながわの考古学」が刊行されました。2000（平成12）年の研究紀要5からは財団法人かながわ考古学財団によって単独で刊行することとなりました。本財団は昨年度に創立25年を迎え、研究紀要も本冊で25号となりました。この間、皆様の当財団へのご理解により、各時代の研究プロジェクトが神奈川県内の考古資料を対象に進めてきた研究成果と本財団職員の個人研究成果を発表する場として刊行を続けることが出来たことに厚く御礼申し上げるとともに、今後とも一層のご指導とご教示を賜りますようお願い申し上げます。

2020（令和2年）年3月

公益財団法人 かながわ考古学財団

目 次

再論 伊勢原地区の層序区分について －相模川以西のローム層序における現状と課題（その2）－ 旧石器時代研究プロジェクトチーム ……………	1
「かながわの土偶」 縄文時代研究プロジェクトチーム ……………	9
弥生時代後期竪穴住居の研究（4） 弥生時代研究プロジェクトチーム ……………	17
考古学の先駆者 赤星直忠博士の軌跡（17） －通称「赤星ノート」の古墳時代資料紹介－ 古墳時代研究プロジェクトチーム ……………	29
神奈川県における古代の仏教関連遺物（3） 奈良・平安時代研究プロジェクトチーム ……………	35
神奈川県 of 県央地域の中世遺跡（5） 中世研究プロジェクトチーム ……………	49
近世道状遺構の集成（5） 近世研究プロジェクトチーム ……………	59

例 言

1. 本書は、公益財団法人かながわ考古学財団の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに共同研究を行った結果を掲載するものである。
2. 各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである。
(五十音順・◎はプロジェクトリーダー、○はサブリーダーを示す)
 - ・旧石器時代研究プロジェクトチーム
大塚健一・◎栗原伸好・○絹川一徳・鈴木次郎・砂田佳弘・西井幸雄・畠中俊明・三瓶裕司・脇 幸生
 - ・縄文時代研究プロジェクトチーム
阿部友寿・天野賢一・井辺一徳・岡 稔・小川岳人・粕谷 隆・景浦 覚・小島 清・○野坂友広・◎村松 篤・山田仁和
 - ・弥生時代研究プロジェクトチーム
○飯塚美保・◎池田 治・新開基史・戸羽康一・本間元樹・渡辺 外
 - ・古墳時代研究プロジェクトチーム
◎植山英史・○柏木善治・岸本泰緒子・新山保和・吉澤 健
 - ・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム
加藤久美・◎川嶋実佳子・○諏訪間直子・高橋 香・西田真由子
 - ・中世研究プロジェクトチーム
相良英樹・中村淳蔵・◎松葉 崇・○宮坂淳一・山口正紀
 - ・近世研究プロジェクトチーム
井関文明・◎木村吉行・後藤信義・眞鍋早紀・○南出俊彦・宮井 香

再論 伊勢原地区の層序区分について

－相模川以西のローム層序における現状と今後の課題（その2）－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

近年、伊勢原・秦野地区では、新東名高速道路建設やその関連事業を中心に、目まぐるしいスピードで発掘調査が進められてきた。相模川以西では調査事例の少なかった旧石器時代の人々の痕跡もいくつもの遺跡で発見され、大きな成果を得ることができている。しかし、これらの地域は富士・箱根の噴給源に近くなることから各遺跡の層厚は増し、これまで旧石器時代の遺跡が数多く発見されてきた相模川以東の相模野台地とは、その様相が異なることも同時に分かってきた。各遺跡の層序を把握することは、遺跡調査の最も基本とするところであるが、発掘調査を優先で取り組んできたことから、本事業に関連する我々の調査成果を報告書として刊行するにはまだ数年の時間が必要となる。

上記の様な背景から、当プロジェクトでは、遺跡調査の基本となる各遺跡の層序区分の概要を『研究紀要』22で報告し、昨年度よりあらためて両地区の層序について報告している。以下、昨年度は秦野地区、今年度は伊勢原地区のローム層序について報告する。



第1図 対象遺跡位置図

上粕屋・石倉中遺跡

本遺跡は、伊勢原市の北部、大江山麓に位置する。大江山山中に源流を発する鈴川により形成された上粕屋扇状地上に立地し、標高は87m前後を測る。今回の調査区は、県道大山・板戸線により東西に分断され、今回の調査区のおよぐ南側には、西の鈴川側から坂道を上がってくる県道上粕屋・南金目線と交差する石倉橋交差点が位置している。L1H相当層上面から黒曜石を主体とする細石刃石器群が発見されている。ローム層は、第X層より始まり、XXII層以下は、土石流等により形成された土層となる。詳細は以下のとおりである。**X層 (L1S相当層①)** 黄橙色ローム。縮まり強く、粘性非常に弱い。径2～4mmの橙色スコリアを多く、径3～5mmの黒色スコリアをやや多く含む。橙・黒スコリアを含んだ白い粘土状のブロックが認められ、富士系スコリアY139が上部に、下面にY138がブロック状で点在する。

XI層 (L1S相当層②) 黄橙色ローム。縮まり弱く、粘性強い。径2～4mmの橙色スコリアを含むが上層より少なく、径4～5mmの黒色スコリアをまばらに含む。層全体が赤色(錆色)・黒色スコリアを含んだ白い粘土質であるが、スコリアの包含量はL1S①層に比べて少ない。本層は、遺跡内で確認できる箇所とそうでない箇所がある。

XII層 (B00相当層) 灰黄褐色ローム。縮まり弱く、粘性強い。径2～4mmの赤色(錆色)スコリアを含むが上位層・下位層に比べはるかに少ない。径5～10mmの黒色スコリアを含むが顕著ではない。

XIII層 (L1H相当層①a) 灰黄褐色ローム。縮まり強く、粘性弱い。径2～4mmの赤色(錆色)スコリア・径4～5mmの黒色スコリアを含む。上面にY137-3がブロック状で点在する。

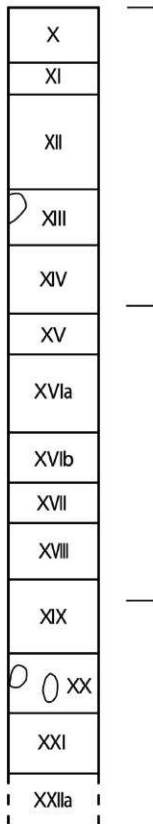
XIV層 (L1H相当層①b) 黄褐色ローム。縮まり強く、粘性弱い。上位層と類似しているが、径10～20mmの黒色スコリアが顕著である。Y137-2がブロック状で点在する。

XV層 (L1H相当層①c) 黄褐色ローム。縮まり強く、粘性弱い。上位層と類似しているが、黒色スコリア少なくなり、径2～3mmの白色バミスが顕著に認められる。

85.0m

84.0m

83.0m



第2図 ローム層堆積模式図

XVI a 層 (LIH相当層②a) 黄褐色ローム。締まり強く、粘性弱い。上位層に比して色調は暗い。赤色(錆色)・黒色スコリアともに上位・下位に比して少ない。

XVI b 層 (LIH相当層②b) 黄灰色ローム。締まり強く、粘性弱い。上位・下位層に比して白色バミスが少なく、径8mmほどの赤色スコリアがブロック状で認められる。上位層と分層可能な部分とそうでない部分がある。

XVII層 (BB1相当層①) 灰黄色ローム。締まり強く、粘性弱い。砂質状。赤色(錆色)スコリア・白色バミスが顕著に認められる。Y137-1のブロックが幅広く点在し、ブロック底面に純層の白色バミスが認められる場合がある。

XVIII層 (BB1相当層②) 灰黄色ローム。締まり強く、粘性弱い。砂質状。径1~2mmの赤色(錆色)スコリアが顕著に認められる。下部に径5mm程の赤色(錆色)スコリア・径10~20mmの黒色スコリアで構成された径8cm程のブロックが認められる。

XIX層 (BB1相当層③) 灰黄色ローム。締まり強く、粘性やや弱い。上位・下位層に比して赤色(錆色)・黒色スコリア・白色バミスが少ない。

XX層 (BB1相当層④) 灰褐色ローム。締まり強くカリカリしている。粘性弱い。砂質状。BB1相当層①と類似し、径1~2mmの赤色(錆色)スコリア・白色バミスを層全体を含む。上面にY132-6?がブロック状に連なる。

XXI層 (BB1相当層⑤) 灰褐色ローム。締まり強く、粘性やや弱い。砂質状。径5mm程の白色バミスを層全体に目立つ。(栗原伸好)

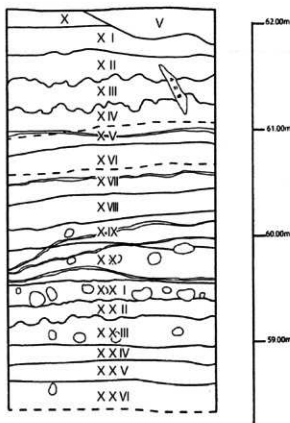
上粕屋・秋山上遺跡第3次調査

上粕屋・秋山上遺跡は、小田急線伊勢原駅から北西約3kmに位置する。遺跡は、上粕屋扇状地の北縁部に立地し、産業能率大学付近を源とする渋田川の支流が眼前を南東に流れている。台地部と河川の標高差は約10mである。

上粕屋扇状地は、丹沢山系の大山を水源とする鈴川が平地部に差し掛かった、比々多神社付近の標高約100mの地点を扇頂部とする東西1.5km、南北3kmの比較的小規模な扇状地である。

遺跡は標高約60~65mの地点に位置し、渋田川の支流を挟んだ対岸の台地部に西富岡・長竹遺跡など旧石器時代遺跡が多く分布している。

伊勢原地区のローム層の堆積状況は、2017年『研究紀要』22で網川が「5. 伊勢原市域のローム層序(西富岡・向畑遺跡)」と題し整理している。その後、2019年に玉川文化財研究所が『西富岡・長竹遺跡第3次調査』を刊行しており、一定の共通理解がなされている。しかし、堆積が厚いため細かい部分は調査者によって見解の



第3図 土層柱状図(年報25より一部改変、転載)

相違がある。

上粕屋・秋山上遺跡第3次調査の基本層位は、『年報25』(2019年)に報告されており、それを基に概略を述べる。基本層位は年報の図版を転記した。ローム層はXV～XXV層に細分されている。

XV～XVI層はL1S層に対比される。XV層は上層に赤褐色スコリアのブロックが部分的に確認される。硬くしまっている。XV層は径3mm前後の橙色スコリアが径10cm前後のブロックで確認される。下部はややしまりが弱く、赤色味を帯びる。層厚は約40cmである。

XVI～XVII層はBB0層に対比される。XVI層は径3～5mm前後の明褐色スコリアを多く含む。径10mm前後の黒灰色スコリアをわずかに含む。上層より黒味を増すが、やや全体に赤味みがついている。層厚は約40cmである。

XVIII層～XX層はL1H層に対比される。XVIII層は径2～4mmの赤銅色のスコリアを含む。径約1mmの白色バミス、径約5mmの黒色スコリアを少量含む。黒色スコリアと赤銅色スコリアの密集部がある。XX層はBB1層の漸移層である。径1～2mmの白色バミス、径3～5mmの赤銅色スコリア、黒色スコリアを少量含む。層厚は約1mである。

XXI～XXIV層はBB1層に対比される。XXII層は径1mm未満の白色バミスも多く、橙色スコリアを含む。XXIV層は径5～15mmの黒色スコリアをブロック状に多く含む。本層より以下は硬化している。層厚は約80cmである。

XXV層はL2層に対比される。径約1mmの白色バミス少量含む。径約2mmの赤色スコリアを含む。下部に赤銅色スコリアが帯状に観察できる。

以上、秋山上遺跡のローム層の堆積状況である。本地域はローム層の堆積が厚く、旧石器時代の調査は、遺物が出土しない限りローム面から2mまでとしている。その為、L1S～L1H層までの観察事例が多くを占めている。(西井幸雄)

上粕屋・子易遺跡

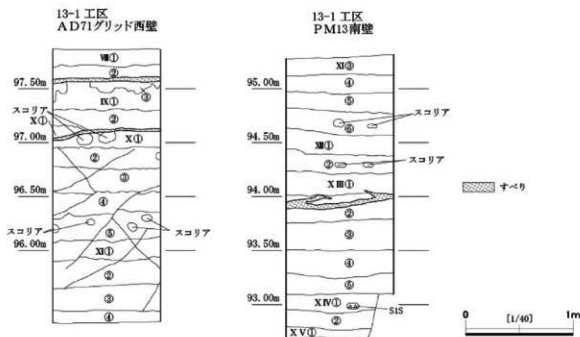
上粕屋・子易遺跡は、大山西東麓の丘陵・台地に移行した付近の台地にある。台地は頂部の幅が狭く、南東側にある鈴川に向かって緩やかに傾斜する段丘上斜面地に立地する。北東部は洪田川水系の谷に面した急峻な崖がある。標高は100m前後を測る。以下、本稿では平成28(2016)年度から平成29(2017)年度にかけて調査を行った13-1工区(残地部分)旧石器時代調査における土層について記述する。なお、第4図には漸移層相当層は含まれていないが、土層の特徴は記す。

13-1工区では、L1H下部、BB1上部、BB2相当層からの遺物の出土に伴い、漸移層からL3相当層までの土層を確認している。

漸移層相当層：褐色～明褐色を呈する粘質土。約10～20cmの層厚を測る。直径3～5mmの橙色スコリア少量、直径3～5mmの灰色スコリア・直径2～3mmの青灰色スコリア(岩片?)を微量含む。層下位には明褐色～黄褐色土(ローム土)が含まれる。

L1S相当層(Ⅷ層)：橙色を呈する。3層に細分した。①・②層は、赤褐色・橙色・黒色スコリア、青灰色岩片を含み、層全体が硬化している。③層では黒色スコリア粒径が大きいもの(N-138か)が観察される。また、層中に赤褐色スコリアの密集が観察される箇所もある。③層は赤褐色・黒色スコリアを含む土層で、粘性が強くなる。①・②層のように硬化はしない。②・③層の層理においてスベリ面が認められる。

BB0相当層(Ⅸ層)：褐色を呈する。赤褐色・黒色スコリアを含む。2層に細分した。①・②層の層相は類似する。②層の方が①層より粘性・しまりが強くなる。また色調も暗くなる。L1H相当層との層境界にスベリ



第4図 13-1工区(残地)ローム土層断面図(調査概報より転載)

面が認められる。

L1H相当層 (X層): 褐色を呈する。5層に細分したが、本遺跡の他の場所では4層に細分できる箇所もある。

①層には赤褐色・黒色スコリア、白色粒子が、②層には赤褐色・黒色スコリア、白色粒子、青灰色岩片が、③層には赤褐色・黒色スコリア、白色粒子、青灰色岩片、紫色スコリア(溶岩片か)、④層には赤褐色・黒色・橙色スコリア、白色粒子、青灰色岩片が、⑤層には赤褐色・黒色・橙色スコリア、白色粒子、紫色スコリア(溶岩片か)、青灰色岩片が含まれる。①層では、赤褐色スコリア(Y-137-3か)の密集が認められる。②・③層では、黒色スコリアが全体に散ったように含まれており、②層ではその密集(Y-137-2か)が認められる箇所がある。⑤層では、層中に赤褐色スコリア(Y-137-1か)の密集が観察される。④層よりスコリアの密度が高くなった印象がある。

BB1相当層 (XI層): 褐色を呈する。6層に細分した。赤褐色・黒色・橙色スコリア、白色粒子、灰色岩片、まれに赤紫色スコリア(溶岩片か)を含んでいる。①層では、赤褐色スコリア(Y-132-6か)の密集が観察される。④層では黒色スコリア粒径の大きいものが目立つようになり、部分的に密集する箇所も観察される。⑤層では、④層で見られた粒径の大きい黒色スコリアの含有が少なくなる。⑥層では、層中に赤褐色スコリア(Y-132-1か)の密集が見られる。

L2相当層 (XII層): 褐色を呈する。2層に細分した。赤褐色・橙色・黒色スコリア、赤紫色岩片、白色粒子、青灰色岩片を含む。BB1相当層に比べスコリアが抜けたように見える。また、色調も明るくなる。②層では、層中に径1mm赤色スコリアの密集が見られる。

BB2相当層 (XIII層): 褐色～暗褐色を呈するが、下部の④・⑤層は地下水の影響が灰黄褐色となる。5層に細分した。②・③層の色調が最も暗い。赤褐色・橙色・黒色・茶色スコリア、赤紫岩片、白色粒子、青灰色岩片を含む。②層では、黒色・茶色スコリアが目立ち、層中に赤褐色スコリアの密集が観察される。層中にス

ベリ面が認められる。③層では層全体にスコリアが散り、バサつく。②層より硬く締まる。

L3相当層 (X層): 褐色を呈する。2層に細分した。橙色・黒色スコリア、白色粒子青灰色岩片を含む。①では、層中に赤褐色・褐色スコリア、茶色岩片の密集層 (Y-121、SIS) が見られる。

②では、層中に黄白色粘土質パミス (Y-118、AT) 含む。

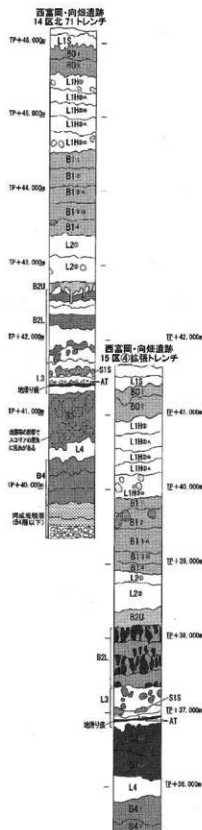
BB3相当層 (XV層): 暗褐色を呈する。確認した範囲で1層のみの確認となった。橙色・黒色スコリア、白色粒子を含む。

年代について: 本遺跡では、13-1工区以外の工区においてもBB1相当層より石器群が出土している。石器群に伴い炭化物も出土しており、これを用いてC14年代測定を実施した。用いた試料は13-1工区L1H相当層と13-8工区B1相当層出土の炭化物である。分析の結果、暦年校正年代 (1 σ) でL1H相当層は21125calBP - 20884calBPの年代範囲が、B1相当層は最も古い測定値で22840calBP - 22595calBP、最も新しい測定値で22531calBP - 22392calBPの年代範囲が示された。(監 幸生)

神奈川県西部における関東ローム層の特徴

近年、神奈川県西部で発掘調査が進行するとともに県西部における関東ローム層の堆積状況が明らかになりつつある。現在、県西部の調査では、標準的な相模野ローム (県央部) の分層基準にもとづいて「相模野ローム〇〇層相当層」という名称で同時期のローム層を一括して、遺跡地で必要な細分 (岩相層序学的な地層単位) を行っている。実際、伊勢原地区では漸移層~BB1層相当層の上面あたりで概ね厚さ2mに達する。秦野地区ではさらに厚みを増す。また、BB2層以下となると、地滑りや断層、隆起などによる地形変形を伴っている場合が少なくない。さらに丘陵部は谷地形を挟むこともあり、埋没谷などの古地形を想定してローム層の分層に留意する必要があるが、遺跡間を通じた比較・検討は十分に進んでいないのが現状である。神奈川県西部のローム層に共通する部分とローカルあるいは局所的な環境変動に対応する部分を関連づけて地層断面の記録化を今後も進めることはいうまでもない。

県西部である伊勢原と秦野地区のローム層堆積を考えるうえで重要なのは富士山の噴火履歴の情報であり、箱根山起源の指標テフラが多数認められる南側の大磯丘陵とは条件が異なっている。約10万年からは古富士火山の活動期にあたり、爆発的噴



第5図 西富岡・向畑遺跡
(研究記要22より転載)

火を繰り返して山麓に140層以上の降下スコリア層を堆積させた(上杉1990)。また、2万4000年～1万3000年前には西・南西・東斜面で山体崩壊を起こしており、これに伴うラハール(火山泥流)がしばしば発生した(山元ほか2002)。さらに1万7000年前からは新富士火山の活動も加わり、多量の溶岩を噴出して山麓を拡大させた(宮地2007)。その後、富士山はFB層(富士黒土)による土壌形成が進んだ静穏期を挟んで新富士火山の活動期に入っている。

伊勢原・秦野地区のローム層には、噴火輪廻が観察可能な降下テフラの純層やそれらが二次的に動いて偽礫化したものが挟在しており、風化が進んだ軟質スコリアが多量に含まれている。また、褐色ロームの間に「暗色帯」と呼ばれる暗褐色ロームが認められ、相模野ローム層のBB0～BB5にはほぼ対応可能な状態で認められるものの、これらも局地的な地形条件により、層厚や母材が異なっている場合がある。いずれにせよ、伊勢原・秦野地区は、県央部と比べて富士火山の噴火活動の影響を大きく受けた地域であることを前提に岩相層序区分を進める必要がある。

一例をあげるなら、伊勢原・秦野地区におけるBB1層に相当するローム暗色帯は、淡く層厚もあって風化した粗粒の火山砕屑物が多量に含まれている。古富士火山では、最終氷期最寒冷期にあたる2万年前前後に東麓・西・南麓で岩屑なだれや泥流が多発した。特に2万2000年前には、大規模な山体崩壊を伴う泥流が発生したことが知られており、相模川を相模原や座間まで流下した富士相模川泥流をもたらした(武原ほか2017)。富士山の火山砕屑物は、南西から北東方向の卓越風により伊勢原・秦野地区から相模原に向かって運ばれ、降下・堆積していく。同時に堆積物を供給する富士山麓は、広範囲にわたって岩屑なだれ・泥流・火砕流による植生破壊が進んだものと思われる。また、大規模な山体崩壊は、富士山麓に堆積していた表面の土壌層なども空中に巻き上げ飛散させたと考えられ、伊勢原・秦野地区のBB1層の相当層のロームに含まれる多様な粗粒スコリアや岩屑は、こうした古富士火山活動の影響を受けたものである。富士山麓から飛来する降下砕屑物や周辺からの風成堆積物の増大した可能性が高く、県央部とは異なるローカルな堆積環境を反映している。この段階は尖頭石器器群が広く出現・展開する時期であり、こうした考古学的なイベントとの関係も視野に入れておく必要がある。(絹川一徳)

おわりに

昨年度に続き相模川以西のローム層の堆積状況および火山灰降灰のプロセスを提示した。対象としたのは、第1図で示した僅か数キロ圏内に位置する4遺跡である。しかし、どの遺跡間の土層柱状図を観察しても、どれ1つとして同一の層位数に分層された層序は認められない。層厚は県西部に向かうほど厚くなり、層序区分は実施しやすくなるものの、分層後の各層序を相模野台地の区分とどう対応させるのか?という作業は、実は非常に難しい作業であるとあらためて実感させられた。しかし、基本層序の把握は、遺跡調査の基本である。発掘優先で業務を進めざるを得ない昨今、この成果が正式に報告されるのは数年後となる。この間にも、周囲では様々な原因で発掘調査が実施されることが予想される。前回・今回の報告が、これまで調査事例が少ない相模川以西の旧石器時代の調査に少しでも参考になれば幸いです。

なお、末筆になりましたが、本校を執筆するにあたり、村澤正弘氏から多大なご助言を頂きました。記して感謝申し上げます。(栗原伸好)

【引用・参考文献】

- 上杉 陽1990「富士火山東方地域のテフラ標準柱状図－その1：S-25～Y114－」『関東の四紀』16, pp.3-28
- 上本進二・上杉 陽1996「神奈川県の特ラ層と遺跡層序-考古学のためのY-no.・S-no. 分層マニュアル」『関東の四紀』20
- 小川岳人2017「上粕屋・石倉中遺跡」『年報』23 財団法人かながわ考古学財団pp.4-9 公益財団法人かながわ考古学財団
- 小川岳人2019「上粕屋・秋山上遺跡第3次調査 上粕屋・和田内下2遺跡」『年報』25 財団法人かながわ考古学財団 pp.5-18
- 公益財団法人かながわ考古学財団2019『上粕屋・子易遺跡（伊勢原市No.39）発掘調査概報 平成29年度新東名高速道路建設事業（伊勢原市子易地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査』
- 旧石器時代研究プロジェクトチーム2017「神奈川県伊勢原・秦野地域の関東ロームの層序について」『かながわの考古学』公益財団法人かながわ考古学財団pp.1-12
- 武原末佳・白井正明・宇津川喬子・河尻清和2017「富士相模川泥流の堆積学的特徴とその流下機構に関する考察」『相模原市立博物館研究報告』25号, pp.60-73
- 町田 洋2007「第四紀テフラからみた富士山の成り立ち：研究のあゆみ」『富士火山』山梨県環境科学研究所, pp.29-44
- 町田 洋2011「第四紀後期の関東ローム層に記録された古環境：古土壌と考古学研究の基礎として」『地球環境』16-2, pp.189-202
- 三浦英樹2011「第四紀の環境変動と人為活動を読みとるための土壌研究の方法論：「堆積土壌」における土壌断面の見方と考え方」『地球環境』16-2, pp.139-150
- 宮地直道2007「過去1万1000年間の富士火山の噴火史と噴出率、噴火規模の推移」『富士火山』山梨県環境科学研究所, pp.79-95
- 山元孝広・高田亮・下川浩一2002「富士火山の岩層なだれ：富士火山一火山災害と噴火予測一」『月刊地球』24, pp.640-644

「かながわの土偶」

縄文時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本報告は、2019年9月15日（土）に当財団主催事業として行った令和元年度の特別研究講座「かながわの土偶」で使用した土偶出土遺跡地名表と文献一覧の再録である。今回土偶をテーマとしたのは、新東名高速道路関係の発掘調査で、秦野市菩提横手遺跡から出土した大形の中空土偶が目されたことや、神奈川県内で縄文時代後期の遺跡の調査例が増していることなどから選定した。この日の講座は、畠中俊明「川尻中村遺跡出土の中期の土偶」、山田仁和「菩提横手遺跡出土の中空土偶」、村松篤「県内の土偶」の3名が報告を行った。その後、文化庁の原田昌幸主任文化財調査官から特別講演「縄文世界の土偶造形とその展開」と題してご講演いただいた。最新の土偶研究の実例や、神奈川の土偶に関するコメントを交えながら、近年では国指定までなされた土偶研究の現状を詳細に解説いただいた。今回の特別研究講座の開催にあたり、これまでの発掘調査で出土した県内の土偶を報告書等から、ピックアップしてみた。従来、神奈川県は土偶の出土は少ない地域と認識されていたようであるが、個別に報告書を調べてみると発掘による発見例が思いのほか増加していることがわかった。結果的には、平成の初めになされた県内の土偶集成と比べ、3倍近い数量の土偶を見いだすことができた。特別研究講座では、土偶が記載された報告書を見ていただくこと、その報告書の一部を会場に展示してみたところ小山のようになった。このような大部の報告書群から土偶を見つけ出し、内容を調べて情報整理するだけでも相当の労力があるように感じられた。そこで、今後土偶に親しもうとする方々や研究対象とする人々が手軽に報告書から必要な土偶の情報を抽出できるように、「かながわの土偶」のインデックスとして遺跡一覧表、文献一覧を作成した。本紀要には、当日配布資料の一部増補したものと、その中で見えてきた「かながわの土偶」の特色を、令和元年度の縄文時代プロジェクトチームの報告として掲載することとした。

1. 「かながわの土偶」の特色

a. 出土土偶の動向

1992年集成（註1）では、48遺跡155点の集成だったが、今回は94遺跡433点となっている（註2）。

・市町村別の出土数を見てみると、13市4町1村で発見されている。相模原市、横浜市が圧倒的に多数を占めていて、相模原では中期の土偶が主体を占める。また、横浜市は中期32個体、後期66個体と後期の土偶が主体を占める。

第1位	相模原市	162個体（17遺跡）
第2位	横浜市	102個体（30遺跡）
第3位	秦野市	50個体（10遺跡）
第4位	平塚市	37個体（5遺跡）
第5位	藤沢市	11個体（6遺跡）

・遺跡別に見ると、中期では20～40個体を出土する遺跡が多いことがわかる。一方後期になると一遺跡の

出土個体数は少ないが、横浜市、藤沢市、平塚市、秦野市を中心に遺跡数が多く分布する様子が見てとれる。

- 第1位 川尻中村遺跡 40個体（相模原市）中期の土偶
- 第2位 橋本遺跡 35個体（相模原市）中期の土偶
- 第3位 原口遺跡 28個体（平塚市）中期（23個体）と後期の土偶
- 第4位 上中丸遺跡 23個体（相模原市）中期の土偶
- 第5位 稲荷木遺跡 20個体（秦野市）後期の土偶

・時期別に見ると、中期の土偶が多く、後期の土偶が次ぐ。中期の土偶は、222個体を数え、後半の加曽利E期が主体を占める。後期の土偶は、179個体で、後期前半の堀之内期が主体を占める。晩期の土偶は、12個体である。小破片については、時期の特定が難しいものが多く、報告書内で記載がないものや時期を渡るものがあり、概数として記載した（註3）。

b. かながわで最も早く発見された土偶

横浜市三沢貝塚出土筒形土偶で、明治39年（1906年）2月15日に発見された。江見水蔵がイギリス人医師マンローにより発掘中の遺跡を見学した際に、地主に発掘費一坪1円を払って発掘を行った。そのとき江見水蔵は、筒形土偶の本体を掘り出し満足して帰っている。江見は発掘当初は、手足を略した「略式土偶」と呼んでいた（註4）。この発見の前には、文政13年（1830）に編纂された『新編武蔵風土記稿』の都筑郡の項に貝塚土偶が図入りで紹介されている。採集品でもあり、詳細は不明である（註5）。

c. かながわで最も古い土偶

折本町貝塚出土土偶が、前期諸磯式土器と共存することから神奈川最古と言われてきた（註6）。ただし現在は中期土偶との意見が主体で、今回の原田主任文化財調査官も講演の中で同様の意見を述べていた。そこで、平塚市原口遺跡出土土偶が、五領ヶ台期と推定されており、神奈川最古となる。足部分だけの出土であるが、径8cm、現高6cmと大型品である。

d. 特殊な出土状態の土偶

住居跡出土の土偶は、90個体程度であるが、住居覆土からの出土がほとんどである。相模原市新戸遺跡のJ9号敷石住居、炉から約1.4m北からは頭部と脚部を欠く土偶が平石の下に幾分隠れるように出土した例程度で、埋納等特殊例は見られない。

e. かながわで最も大きな土偶

土偶は、多くは破片で出土する。そのため全体の大きさがわかる土偶は少ない。部位別にみると、横浜市公田ジョウロ塚遺跡出土の頭部は現存で17cmの高さがあり、土偶とすると相当な大きさに復元できる（註7）。ただし、人面把手と見られる見解もあり評価が定まっていない。今回の講演の中で原田主任文化財調査官が実物を観察した所見としては、土偶の可能性が高いとコメントされていた。秦野市大岳院遺跡のみみづく土偶は、頭部の大きさから見て高さは20～27cmと推定され、のみみづく土偶としては大形である。また、足だけの土偶なら平塚市原口遺跡（径8cm）の五領ヶ台期のものが、復元すると高さ30cmを越すと推定されている。全体の形状がわかる土偶は、平塚市王子ノ台遺跡の中空土偶は下半部を欠くが、高さ30cmを越す大形土偶である。また、秦野市指菩提横手遺跡中空土偶は、高さ25cmで左足の一部と左腕が欠けるが、土偶全体の姿がわかる。

「かながわの土偶」については、中期と後期での土偶の分布の相違や、出土する遺跡の傾向等いくつも検討課題が見えている。今後はこれまでの県内の土偶研究の成果を踏まえた基礎的なデータの構築と体系的な

検討が課題と思われる。(村松篤)

- (註1) 鈴木保彦 1992「神奈川県出土の土偶」『国立歴史民俗博物館研究報告第37集』
- (註2) 現在進行中の大規模遺跡の調査成果が明らかになると時代別の個体数は変動すると予想される。
- (註3) ここにあげた土偶としての認定や時期は、文献に記載された情報を採用している。
- (註4) 中山清隆編 2001『江見水蔭『地底探検記』の世界解説・研究編』雄山閣出版
- (註5) 野中完一 1902『新編武蔵風土記稿に記された貝塚土偶』人類学雑誌17-192
- (註6) 野口義廣編 1974『古代史発掘3土偶芸術と信仰』
- (註7) 東京国立博物館編 2018『縄文-1万年前の美の鼓動』

2. かながわの土偶出土遺跡一覧表

遺跡No	市町村(区)	遺跡名	土偶点数	時期	文献
1	横浜市南区	稲荷山貝塚	13	後期前半	67
2	横浜市青葉区	受地だいやま遺跡	7	中期後半	26
3	横浜市青葉区	松風台遺跡	4	中期後半	35
4	横浜市青葉区	上恩田遺跡群	3	後期前半	36
5	横浜市旭区	上白根町後谷北遺跡	1	中期	34
6	横浜市旭区	市の沢中崎遺跡	1	中期	18
7	横浜市磯子区	杉田貝塚	2	後期前半、晩期	16・6
8	横浜市神奈川区	三ツ沢貝塚	4	中期1、後期前半4	1・4・16
9	横浜市金沢区	青ヶ台貝塚	3	後期前半	48
10	横浜市港北区	榎戸第一遺跡	1	後期前半	13
11	横浜市港北区	市営菅田住宅地内遺跡	1	後期前半	32
12	横浜市港北区	羅原大塚遺跡	2	後期	74
13	横浜市都筑区	二ノ丸遺跡	3	中期後半	72
14	横浜市都筑区	川和向原遺跡	2	後期前半	50
15	横浜市都筑区	原出口遺跡	2	後期前半	50
16	横浜市都筑区	華藏台遺跡	16	後期前半	80
17	横浜市都筑区	三ノ丸遺跡	1	後期前半	21
18	横浜市都筑区	小丸遺跡	5	後期前半	60
19	横浜市都筑区	大熊神町遺跡	2	中期後半	63
20	横浜市都筑区	加賀原遺跡	1	中期	86
21	横浜市都筑区	前高山遺跡	2	中期後半	66
22	横浜市都筑区	月出松遺跡	5	中期後半	77
23	横浜市都筑区	西ノ谷貝塚	5	後期前半	73
24	横浜市都筑区	折本貝塚	1	中期(前期後半?)	11
25	横浜市保土ヶ谷区	弘向貝塚	10	後期	17・87
26	横浜市栄区	公田ジョウロ塚遺跡	1	中期、顔面把手の可能性	16
27	横浜市栄区	上野鎌田遺跡	2	中期	20
28	横浜市中区	西ノ谷大谷遺跡	1	中期	29
29	横浜市中区	ヒソナ貝塚	1	後期	5
30	川崎市麻生区	岡上丸山遺跡	3	後期前半	22

縄文時代研究プロジェクトチーム

遺跡No	市町村(区)	遺跡名	土偶点数	時期	文献
31	川崎市麻生区	宮浜遺跡	1	中期後半	30
32	相模原市緑区	川尻遺跡	22	中期10、晩期12	38・84・94
33	相模原市緑区	川尻中村遺跡	40	中期後半	68
34	相模原市緑区	原東遺跡	1	中期後半	64
35	相模原市緑区	三ツ木遺跡	2	中期前半	41
36	相模原市緑区	相原八幡前遺跡	4	中期後半	69
37	相模原市緑区	橋本遺跡	35	中期前半1、中期後半34	27
38	相模原市緑区	黒岩ニッ木団地内遺跡	1	後期後半	61
39	相模原市緑区	田名花ヶ谷戸遺跡	7	中期	42
40	相模原市緑区	はじめ沢下遺跡	1	中期	83
41	相模原市緑区	大日野原遺跡	1	中期	16
42	相模原市緑区	相模原No.142遺跡	1	中期	43
43	相模原市中央区	山王平遺跡	8	中期後半	57
44	相模原市南区	上中丸遺跡	23	中期後半	46
45	相模原市南区	下中丸遺跡	4	中期前半	37
46	相模原市南区	当麻遺跡	4	中期前半～中期後半	14
47	相模原市南区	下原遺跡	3	中期前半	39
48	相模原市南区	新戸遺跡	5	中期後半	33
49	平塚市	原口遺跡	28	中期中1前23後1後期前半4	70
50	平塚市	王子ノ台遺跡	2	後期中～後半	51・62
51	平塚市	貝殻坂貝塚(万田貝殻坂)	4	後期	3・52
52	平塚市	内ムクリB遺跡	2	後期後半	7
53	平塚市	山王久保遺跡	1	中期	76
54	鎌倉市	間谷島ノ神西遺跡	1	後期前半	23
55	鎌倉市	東正院遺跡	7	後期前半	9・16
56	藤沢市	西富貝塚	3	後期前半～後半	8・90
57	藤沢市	遠藤貝塚	3	後期前半	44
58	藤沢市	向川名遺跡	2	後期	75
59	藤沢市	川名中丸遺跡	1	後期前半	8
60	藤沢市	稲荷台地遺跡	1	後期前半	53
61	藤沢市	石川山田A地点遺跡	1	後期	88
62	小田原市	久野北側下遺跡	1	後期前半	78
63	小田原市	天神山第Ⅲ地点	9	中期～後期前半	93
64	茅ヶ崎市	堤貝塚	1	後期	19
65	茅ヶ崎市	行谷遺跡	1	後期	36
66	茅ヶ崎市	久保山遺跡	1	後期	56
67	栗野市	天神台遺跡	4	中期前半3、後期1	52・24
68	栗野市	菅原横手遺跡	1	後期前半	95
69	栗野市	堂坂遺跡	1	後期後半	89
70	栗野市	寺山金目遺跡	1	後期前半	89
71	栗野市	平沢回明遺跡	10	後期・晩期、土偶形容器1	89

「かながわの土偶」

遺跡No	市町村(区)	遺跡名	土偶点数	時期	文献
72	栗野市	太呂院遺跡	8	後期・晩期	24・86-91
73	栗野市	中里遺跡	1	後期前半	54
74	栗野市	曾屋吹上遺跡	3	後期	24・71
75	栗野市	三廻部東耕池遺跡	1	後期前半	99
76	栗野市	稲荷木遺跡	20	後期	97-98
77	厚木市	鎌野日影坂上遺跡	1	中期後半	58
78	厚木市	忍名神原遺跡	1	中期後半	65
79	厚木市	下依知大久根遺跡	2	中期後半	25
80	伊勢原市	坪ノ内・久門寺遺跡	1	後期	100
81	伊勢原市	下北原遺跡	1	中期前半	81
82	伊勢原市	西富岡・向畑遺跡	1	中期	92
83	伊勢原市	上粕屋・秋山遺跡	2	後期	99
84	伊勢原市	池端・駒形遺跡	1	後期	100
85	南足柄市	五反塚遺跡	6	後期	59
86	綾瀬市	上土樋南遺跡	13	後期前半	82
87	綾瀬市	宮久保遺跡	1	後期前半	28
88	寒川町	岡田遺跡	5	中期	45
89	大磯町	石神台遺跡	2	後期	12・40
90	大井町	金子台遺跡	4	後期後半	9
91	山北町	尾崎遺跡	1	中期前半	15
92	清川村	北原No.9遺跡	1	後期前半	47
93	清川村	馬場No.6遺跡	2	後期前半	49
94	清川村	表の屋敷No.8遺跡	1	後期前半	55
		合 計	433		

【掲載報告書等引用文献】

1. 江見水彦 1909 『地中の秘密』
2. 大野雲外 1917 「相模発見の土偶」『人類学雑誌』32-2
3. 八幡一郎他 1925 「神奈川県中郡旭村萬田貝殻坂の石器時代遺跡」『人類学雑誌』40-4
4. 松下嵐信 1930 「横浜市青木町三ツ沢貝塚発見の土偶」『史前学雑誌』2-2
5. 松下嵐信 1930 「横浜市中区根岸町ヒソナ貝塚出土の土偶と曲玉」『史前学雑誌』2-5
6. 杉原荘介他 1963 「神奈川県杉田・桂台遺跡の研究」『考古学集刊』第2巻第1号
7. 江坂輝弥他 1965 『平塚市上沢敷石遺構調査』平塚市文化財報告書第5集
8. 寺田兼方 1970 『藤沢市史』第1巻資料編 藤沢市教育委員会
9. 鈴木保彦 1972 『東正院遺跡調査報告 神奈川県鎌倉市間谷所在の縄文遺跡について』神奈川県教育委員会・東正院遺跡調査団
10. 赤星直忠 1974 『神奈川県金子台遺跡』横須賀考古学会
11. 野口義廣編 1974 『古代史発掘3 土偶芸術と信仰』講談社
12. 高山純他 1975 『大磯・石神台配石遺構発掘調査報告書』大磯町教育委員会
13. 川上久夫 1976 『港南台』神奈川県埋蔵文化財調査報告9
14. 山本曜久 1977 『当麻遺跡・上依知遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告12
15. 岡本孝之他 1977 『尾崎遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告13

縄文時代研究プロジェクトチーム

16. 神奈川県 1979 『神奈川県史』資料編考古資料
17. 石井寛 1979 「横浜市保土ヶ谷区仏向貝塚の資料」『調査研究集録』第4冊港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
18. 江藤昭他 1980 『市の沢中崎遺跡』横浜市市の沢中崎遺跡調査団
19. 茅ヶ崎市 1980 『茅ヶ崎市史3、考古・民俗編』
20. 江藤昭他 1983 『上郷猿田遺跡』横浜市上郷猿田遺跡調査団
21. 伊藤邦他 1985 『三の丸遺跡調査概報』横浜市文化財横浜埋蔵文化財調査委員会
22. 竹石健二他 1985 『岡上丸山遺跡発掘調査報告書』川崎市教育委員会
23. 永井正憲 1985 『関谷島ノ神西遺跡発掘調査報告書』関谷島ノ神西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会
24. 杉山博久 1985 『栗野市史』別巻考古編
25. 江藤昭他 1985 『下依知大久根遺跡』下依知大久根遺跡発掘調査団
26. 重久淳一他 1986 『奈良地区道群Ⅰ』発掘調査報告(第2分冊)
27. 大貫英明他 1986 『橋本遺跡 縄文時代編』相模原市本遺跡調査会
28. 長岡文紀他 1987 『宮久保遺跡Ⅰ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告15
29. 滝沢亮 1987 『横浜市・西之谷大谷遺跡の調査』『第11回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』
30. 茅ヶ崎市 1987 写真集茅ヶ崎-きのうきょう-
31. 玉口時雄他 1988 「川崎市黒川地区道群・宮浜遺跡他の調査」『第13回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』神奈川県考古学会
32. 橋本昌幸 1988 『市営菅田住宅地内遺跡発掘報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
33. 大上周三他 1988 『新戸遺跡 県立新磯高校建設にともなう調査第1分冊』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告17
34. 橋本昌幸 1989 『上白根町後谷北遺跡発掘調査報告』横浜市埋蔵文化財調査委員会
35. 渡辺務 1990 『松風台遺跡』日本窯業史研究所
36. 近藤真佐夫 1990 『上恩田の遺跡』日本窯業史研究所
37. 三ツ橋正夫他 1992 『神奈川県相模原市下中丸遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
38. 御堂島正 1992 『川原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告23
39. 三ツ橋和正 1992 『下原遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
40. 杉山幾一 1992 『石神台』大磯町教育委員会
41. 御堂島正他 1993 『三ヶ木遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告26
42. 滝沢亮他 1993 『田名花ヶ谷戸遺跡(資料編)』相模原市田名塩田地区埋蔵文化財調査団
43. 北川良明他 1993 『相模原No.142遺跡』相模原市教育委員会
44. 寺田兼方他 1993 『遠藤貝塚(西部217地点)』藤沢市西部開発事務局・藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
45. 小林義典他 1993 『岡田遺跡』県営岡田団地内遺跡発掘調査団
46. 三ツ橋正夫他 1994 『上中丸遺跡(上)』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
47. 市川正史他 1994 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅳ 北原(Na.9)遺跡(2)北原(Na.1)遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター-21
48. 西田壽民他 1994 『青ヶ台貝塚発掘調査概報』佐野大和
49. 鈴木次郎他 1995 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅴ』かみなわ考古学財団調査報告4
50. 石井寛 1995 『川和原遺跡 原出口遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告19(附横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会)
51. 秋田かな子 1995 「王子ノ台遺跡・真田大原遺跡隣接地」東海大学校地内遺跡調査団報告5 東海大学校地内遺跡調査委員会東海大学校地内遺跡調査団
52. 磯前順一他 1996 『東京大学総合研究博物館所蔵縄文時代土偶・その他土製品カタログ』
53. 戸田哲也他 1996 『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書』稲荷台地遺跡群発掘調査団
54. 村上吉正他 1997 『中里遺跡(No.31) 西大竹上原遺跡(No.32) 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告4-栗野市内-』かみなわ考古学財団調査報告30
55. 近野正幸他 1997 『宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅢ』かみなわ考古学財団調査報告19

56. 茅ヶ崎市 1997 『久保山道跡』第8回茅ヶ崎市道跡調査発表会要旨 茅ヶ崎市文化振興財団
57. 戸田哲也他 1998 『山王平道跡縄文時代編』澁野辺山王平道跡発掘調査団
58. 迫和幸他 1998 『神奈川県厚木市 澁野日影坂上道跡発掘調査報告書』澁野日影坂上道跡発掘調査団
59. 安藤文一 1998 『五反畑道跡発掘調査概報』五反畑道跡発掘調査団
60. 石井寛 1999 『小丸道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会
61. 北平潤久他 1999 『県営三ヶ木団地内道跡』県営三ヶ木団地内道跡発掘調査団
62. 平塚市 1999 『平塚市史11上別編考古』
63. 坂上克弘 2000 『大熊井町道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告26
64. 天野賢一他 2000 『原東道跡』かながわ考古学財団調査報告79
65. 迫和幸他 2000 『神奈川県厚木市 恩名沖原道跡発掘調査報告書』恩名沖原道跡発掘調査報告
66. 石井寛他 2001 『前高山道跡・前高山北道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告29 横浜市港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
67. 松田光太郎他 2002 『稲荷山貝塚 根岸米軍(11)法面整備工事に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告131
68. 天野賢一他 2002 『川尻中村道跡』かながわ考古学財団調査報告133
69. 香村統一 2002 『相原八幡前道跡』相原地区道跡調査団調査報告書5 相模原市
70. 長岡文紀 2002 『原口道跡Ⅲ 縄文時代 農業総合研究所建設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告134
71. 今泉克己他 2002 『曾屋吹上道跡200102地点』曾屋吹上道跡発掘調査団
72. 小宮恒雄他 2003 『二ノ丸道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告34
73. 坂本彰他 2003 『西ノ谷貝塚』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33(財)横浜市ふるさと歴史財団
74. 天野賢一他 2004 『篠原大原道跡』かながわ考古学財団調査報告175
75. 三ツ橋勝 2004 『向川名道跡(No.25)発掘調査報告書』藤沢市No25道跡発掘調査団
76. 大野悟 2004 『山王久保道跡-第11地点-』平塚市教育委員会 平塚市埋蔵文化財シリーズ39
77. 坂上克弘他 2005 『月出松道跡・月出松南道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告37 横浜市港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
78. 粕谷隆他 2005 『久野北側下道跡第Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ地点 久野北久保下第1地点』小田原市第123集
79. 戸田哲也他 2007 『万田貝殻貝塚(万田道跡第9地点)』平塚市・玉川文化財研究所
80. 石井寛 2008 『華蔵台道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告41(財)横浜市ふるさと歴史財団
81. 大塚健一他 2008 『下北原道跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告222
82. 矢島圓雄他 2008 『土土欄南道跡第5次～第7次調査の記録』綾瀬市埋蔵文化財調査報告6
83. 井辺一徳他 2009 『はじめ沢下道跡』かながわ考古学財団調査報告236
84. 藤沢市 2009 『大地に刻まれた藤沢の歴史Ⅱ』藤沢市教育委員会
85. 天野賢一他 2010 『川尻道跡Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告262
86. 小森明美他 2011 『太岳院道跡2006-02地点』東野市教育委員会
87. 石井寛他 2012 『加賀原道跡・佐江戸8道跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告45 横浜市港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
88. 阿部友寿他 2012 『仏向貝塚・仏向道跡・仏向町道跡』かながわ考古学財団調査報告133
89. 小森明美他 2012 『神奈川県秦野市 堂坂道跡・寺山道跡・寺山金目道跡・平沢同明道跡』秦野市教育委員会
90. 染谷七重 2012 『西宮貝塚(No.46道跡)発掘調査報告書-第4次調査-』湘南考古学研究所
91. 坪田弘子他 2013 『大岳院道跡・尾尻尾崎道跡・水神道跡・今泉西福道跡』
92. かながわ考古学財団 2013 『考古学財団年報』20公益財団法人かながわ考古学財団
93. 戸田哲也他 2016 『天神山道跡Ⅲ地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
94. 河本雅人 2017 『国指定史跡川尻石器時代遺跡総括報告書』相模原市教育委員会

縄文時代研究プロジェクトチーム

95. かながわ考古学財団 2018 『考古学財団発福帖』No. 28 公益財団法人かながわ考古学財団
96. かながわ考古学財団 2019 『考古学財団年報』25 公益財団法人かながわ考古学財団
97. かながわ考古学財団 2018 「平成30年度特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2018」展示遺物目録
98. かながわ考古学財団 2019 「令和元年度特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2019」展示遺物目録
99. かながわ考古学財団 2020 『考古学財団年報』26 公益財団法人かながわ考古学財団
100. 伊勢原市教育総務課 「伊勢原文化財サイト 縄文時代」

【参考文献】

- 鈴木保彦 1995 『土偶シンポジウム3 稲木大会 関東地方後期の土偶』
縄文時代研究プロジェクトチーム2000 「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅴ」かながわ考古学財団研究紀要5
- 高橋毅 2004 「筒形土偶の背景に向けて」『考古論叢 神奈河第12集』
縄文時代研究プロジェクトチーム2005 「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅶ」かながわ考古学財団研究紀要
千集載 2016 「神奈川の土偶」第13回土偶研究会要旨

弥生時代後期竪穴住居の研究（4）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

今回は逗子市・横須賀市・三浦市・鎌倉市・藤沢市・寒川町・茅ヶ崎市・座間市内における竪穴住居の集成と分析を行い、特徴の把握を行った。座間市内には対象となる遺跡が存在しなかった。今回の対象は相模川の東側から三浦半島まで広い地域を対象とするため、地形的な特徴を考慮し、大きく二つの地域に分割して集成・分析を行う。具体的には、地形的に多摩丘陵の中でも大起伏を特徴とする三浦丘陵を境界として東西に地域を分割することとした。河川としては滑川流域を境とする。本稿では滑川流域から西側を三浦地域（第1図1～14）、東側を湘南地域（第1図15～44）、として便宜的に呼称する。

今回の執筆・編集はプロジェクトメンバーによる検討結果に基づき、池田、飯塚、戸羽が行った。

湘南地域・三浦地域における竪穴住居跡の特徴

帰属時期別住居軒数

帰属時期：湘南地域で集成した竪穴住居跡426軒の帰属時期は後期：311軒、庄内併行期：60軒、不明：55軒である。三浦地域で集成した竪穴住居跡465軒の帰属時期は後期：401軒、庄内併行期：35軒、不明：29軒である。

住居形態など

平面形態：湘南地域では後期の311軒中、最も多いのは隅丸(長)方形181軒で、以下楕円形56軒、円形9軒、(長)方形7軒、不整形3軒となる。平面形態不明は55軒である。庄内併行期では60軒中、隅丸(長)方形が39軒、(長)方形が9軒、楕円形2軒、円形1軒、不整形1軒、不明8軒となる。

三浦地域では後期の401軒中、最も多いのは平面形態が隅丸(長)方形251軒で、以下楕円形52軒、円形9軒、(長)方形5軒、楕円形の可能性があるもの5軒、不整形2軒である。平面形不明のものは77軒である。庄内併行期では35軒中、隅丸(長)方形が20軒、(長)方形6軒、楕円形4軒、円形1軒となる。平面形不明のものは4軒である。

後期・庄内併行期ともに、短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）が存在する。湘南地域では後期5軒、庄内併行期2軒、三浦地域では後期に4軒確認されている。

長短率：湘南地域において、後期で算出できたのは85軒で、基本統計量は最大140.6、最小80.2、平均110.9、中央値108.8という値を示した。庄内併行期で算出できたのは25軒で、基本統計量は最大154.3、最小75.7、平均111.0、中央値110.0という値を示した。

三浦地域において、後期で算出できたのは94軒で、基本統計量は最大146.3、最小87.8、平均107.3、中央値107.6という値を示した。庄内併行期で算出できたのは11軒で、基本統計量は最大163.8、最小101.6、平均114.6、中央値112.9という値を示した。

方形指数：湘南地域において、後期では95軒算出できた。方形指数20～30未満22軒と最も多く、次いで30～40未満21軒、10～20未満18軒と続く。方形指数0～50未満に集中する。庄内併行期では21軒算出できた。

方形指数50～60未満が7軒と最も多く、20～30未満が6軒、40～50軒が3軒と続く。方形指数20～60未満に集中する。

三浦地域において、後期では113軒で算出できた。方形指数20～30未満33軒と最も多く、次いで10～20未満23軒、40～50未満15軒と続く。方形指数10～60未満に集中する。庄内併行期では12軒で算出できた。10～20未満6軒と最も多く、20～30未満が2件と続く。方形指数10～30未満に集中する。

主軸方位：北東方向(N-O°-E)または北西方向(N-O°-W)を0～90°の間で角度を計測し、10°ごとに集計を行い、グラフ化した。円が角度を、軒数を各角度の軸で示している。湘南地域において、後期に北東方向を主軸とする住居跡は43軒あり、0°以上～10°未満が6軒、10～20°未満・20～30°未満・30～40°未満がそれぞれ7軒、60～70°未満5軒、70～80°未満6軒と、0°以上40°未満および60°以上80°未満に集中する。北西方向を主軸とする住居跡は142軒あり、50°以上～60°未満29軒、40～50°未満・60～70°未満・70～80°未満がそれぞれ21軒、80～90°未満20軒と、40～90°未満に集中する。

また、真北(0°)を主軸とする住居跡が1軒存在する。庄内併行期に北東方向を主軸とする住居跡は10軒あり、30～40°未満3軒、40～50°未満が2軒、70～80°未満2軒が主な分布である。北西方向を主軸とする住居跡は21軒あり、40～50°未満が5軒、60～70°未満・70～80°未満がそれぞれ4軒、80～90°未満3軒に主に分布する。

三浦半島地域では、後期に北東方向を主軸とする住居跡は21軒あり、0°以上～10°未満が6軒、10～20°未満が5軒、20～30°未満3軒と、0～30°未満に集中する。北西方向を主軸とする住居跡は87軒あり、20～30°未満15軒、30～40°未満25軒、40～50°未満が17軒と、20～50°未満に集中する。また、南東方向を主軸とする住居跡70～80°未満が1軒確認されている。庄内併行期で北東方向を主軸とする住居跡は2軒で、10～20°未満が1軒、50～60°未満が1軒である。北西方向を主軸とする住居跡は30軒で、10～20°未満5軒、20～30°未満5軒、30～40°未満7軒と、10～40°未満に集中する。

主柱穴：住居の主柱穴本数が確認できたものについて集計した。なお、軒数には柱穴配置により、本数が推定可能な遺構を含む。湘南地域において、後期では173軒中、主柱穴4本の住居が119軒で約69%、次いで主柱穴0本の住居が50軒で約29%の割合を占める。庄内併行期では32軒中、主柱穴4本の住居が22軒で約69%、主柱穴0本の住居が9軒で約28%の割合を占める。

三浦半島地域では、後期260軒中、主柱穴4本の住居が251軒で約97%の割合を占める。三浦市赤坂遺跡14次調査B2地点2号住居址は主柱穴9本である可能性がある。庄内併行期では28軒中、主柱穴4本の住居が27軒で約96%の割合を占める。

地形と立地

分布する地形面：湘南地域では、後期・庄内併行期ともに台地の分布が主体であるが、藤沢市や茅ヶ崎市、寒川町では砂丘や低地の遺跡が散見される。三浦地域では、後期、庄内併行期ともに台地・丘陵に分布する。

水系：湘南地域の後期では311軒中、引地川水系に132軒、相模川水系に95軒、境川水系に83軒分布する。庄内併行期では60軒中、境川水系に26軒、引地川水系に22軒、相模川水系に11軒分布する。

三浦地域の後期では401軒中、前田川・松越川水系に258軒と集中して分布する。次いで、平作川水系に37軒、滑川水系に19軒に分布する。庄内併行期では35軒中、前田川・松越川水系に27軒分布する。

住居付帯施設

炉跡：湘南地域において、後期311軒中178軒で確認されている。その内訳は地床炉131軒、枕石炉21軒、

枕粘土炉4軒、粘土板炉22軒である。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は14軒存在する。枕石炉は茅ヶ崎市白久保遺跡で8軒、粘土板炉は藤沢市石名坂遺跡第7次調査で16軒確認されている。

庄内併行期では60軒中31軒で確認されており、その内訳は地床炉25軒、枕石炉1軒、粘土板炉5軒である。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は3軒存在する。粘土板炉は藤沢市稲荷台地遺跡群C・D地点、F地点で合計5基確認されている。

三浦半島地域では、後期401軒中278軒で確認されている。その内訳は地床炉129軒、枕石炉140軒、枕粘土炉1軒、粘土板炉5軒である。枕石炉は三浦市赤坂遺跡、横須賀市高原遺跡で数多く確認されている。粘土板炉は鎌倉市大倉幕府周辺遺跡で5軒見つかった。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は28軒存在する。庄内併行期では35軒中25軒で確認されており、その内訳は地床炉11軒、枕石炉12軒、枕粘土炉2軒である。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は5軒存在する。

入口穴・梯子穴：湘南地域において、後期に33軒で入口穴が、3軒で梯子穴が確認されている。庄内併行期に4軒で入口穴が確認されている。

三浦地域において、後期に37軒で入口穴が、10軒で梯子穴が確認されている。庄内併行期に15軒で入口穴が、1軒で梯子穴が確認されている。

貯蔵穴：湘南地域において、後期に31軒で確認されている。そのうち周堤を有するものは4軒、複数基あるものは1軒である。庄内併行期には6軒確認されているが、周堤を有するものや複数基あるものはない。

三浦地域において、後期では178軒で確認されている。このうち周堤を有するものは66軒、複数基あるものは32軒である。庄内併行期では20軒で確認されており、このうち周堤を有するものは9軒、複数基あるものは1軒である。横須賀市船久保遺跡12号住居跡では周溝を伴う貯蔵穴が1基確認されている。

周溝：湘南地域において、後期で全周するものは35軒(11.3%)、部分的に存在するものは43軒(13.8%)、存在しないものは83軒(26.7%)、不明は150軒(48.2%)である。庄内併行期で全周するものは7軒(11.7%)、部分的に存在するものは4軒(6.7%)、存在しないものは14軒(23.3%)、不明は35軒(37.6%)である。

三浦地域において、後期で全周するものは138軒(34.4%)、部分的に存在するものは137軒(34.2%)、存在しないものは116軒(28.9%)、不明は10軒である。庄内併行期では35軒中、全周するものは15軒(42.9%)、部分的に存在するものは7軒(20.0%)、存在しないものは11軒(31.4%)、不明は2軒(37.6%)である。

住居廃絶など

拡張：湘南地域において、後期で19軒、庄内併行期で4軒確認された。このうち2回以上拡張されているものは存在しない。茅ヶ崎市白久保遺跡で後期5軒、寒川町高田南遺跡で後期3軒が確認されている。

三浦地域において、後期で22軒、庄内併行期で4軒確認された。このうち2回以上拡張されているものは存在しない。横須賀市高原遺跡で後期14軒、同市三足谷遺跡で後期3軒が確認されている。

焼失：湘南地域において、後期で46軒確認されており、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは22軒である。茅ヶ崎市白久保遺跡で14軒、藤沢市稲荷台地遺跡群F地点で6軒、同市石名坂遺跡第7次調査で3軒、同市二伝寺岩遺跡で4軒、同市清水遺跡で5軒が見つかった。庄内併行期で9軒確認されており、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは3軒である。

三浦地域において、後期で20軒確認されており、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは13軒である。庄内併行期で5軒確認されており、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは3軒である。

埋没過程：大半が自然作用による埋没であるが、後期で人為的に埋め戻されている住居が一定数存在する。

湘南地域では、後期12軒、庄内併行期で2軒確認されている。後期12軒のうち、藤沢市渡内遺跡で4軒、寒川町高田南遺跡で10軒確認されている。

三浦地域では、後期7軒、庄内併行期で1軒確認されている。横須賀市高原遺跡・高原北遺跡では後期7軒のうち5軒が確認されている。

出土遺物

遺物：出土遺物で主体となるのは土器類、石器類であるが、ここではそれ以外に特徴のある遺物を出土した住居跡を列挙する。

後期：湘南地域：藤沢市稲荷大地遺跡群F地点35号住居址：メノウ原石・方口銭状鉄製品、同市石原谷遺跡第3地点2・5・6・24号住居址：ミニチュア、同市石名坂第7次調査2号住居址：ミニチュア・ガラス小玉、同遺跡5号・9号住居址：ミニチュア・焼成粘土塊、同遺跡第10・12・14号住居址：焼成粘土塊、同遺跡第16・26号住居址：炭化桃果核、同市二伝寺遺跡5号住居址：円盤状土製品、同遺跡6号住居址：ガラス小玉、同遺跡16号住居址：甕、若尾山遺跡藤沢市大道小学校内地点第13号住居址：土製紡錘車、同市清水遺跡第301B号堅穴住居跡：土製紡錘車、同遺跡第304号堅穴住居址：鉄製刀物、同遺跡第315号堅穴住居址：有孔軽石製品、同遺跡第411号堅穴住居址：有孔円盤、茅ヶ崎市臼久保遺跡Y15号住居跡：土製紡錘車、同遺跡Y36号住居跡：ガラス小玉、寒川町倉見オ戸遺跡第3次調査2号住居跡：三角形板状鉄片、棒状鉄片、同町倉見川登遺跡4区9号住居跡：管玉

三浦半島地域：三浦市赤坂遺跡14次A地点6・8号住居址：ガラス小玉、赤坂遺跡14次B1地点5A住居址：銅鏃、同7号住居址：鉄銅片、同市赤坂遺跡10次1A号住居址：石剣・銅鏃・銅角、同5号住居址：不明鉄製品、9号住居址：銅鏃破片、同市赤坂遺跡11次2A号住居址：ガラス小玉、同6C号住居址：板状鉄斧、横須賀市高原遺跡Y2A・6・7A・8・11・20・43・50・102・107・123・141・177・178・200・217・225・227・235・237B・238・250・265号住居跡：子産石、同遺跡Y3・114号住居跡：土鍾、同遺跡Y9号住居跡：ミニチュア・土鍾、同遺跡Y72号住居跡：軽石製紡錘車・子産石、同遺跡Y89号住居跡：鉄鏃、同遺跡Y143号住居跡：銅製品、同遺跡Y154A・170・176・231・258号住居跡：銅環・子産石、同遺跡Y154B遺跡：ガラス小玉・子産石、同遺跡Y160・162・201A号住居跡：銅環、同遺跡Y201B住居跡：鉄鏃・銅環、同遺跡Y224号住居跡：ガラス小玉、同遺跡Y226号住居跡：ミニチュア、同遺跡Y244号住居跡：垂飾状席製品（滑石製）・イノシシ歯・子産石、同遺跡Y265号住居跡：ミニチュア・子産石、横須賀市矢ノ津坂遺跡Y11号住居跡：粘土塊、同市米の台遺跡S I 07・08・11：土製丸玉、同市三足谷遺跡6a号住居跡：編物石、同遺跡11a住居跡：勾玉、同遺跡12住居跡：鉄鏃、同遺跡20住居跡：ミニチュア、鎌倉市大倉幕周辺遺跡雪ノ下4丁目581-5地点23号住居跡：有頭石鍾、同26号住居跡：ミニチュア、同30号住居跡：有孔石製品

庄内併行期：湘南地域：藤沢市石原谷遺跡第3地点：ミニチュア、同市二伝寺遺跡2号住居址：管状土鍾、同市若尾山遺跡藤沢市大道小学校内地点7号住居址：刀子？、同8号住居址：鉄鏃・刀子？、同12号住居址：銅鏃、同市大庭城跡3号住居址：銅鏃、同市№431遺跡：不明鉄製品、同市御幣山遺跡第8号堅穴住居・第12号住居：ミニチュア、同市下土欄諏訪ノ欄遺跡第4次調査：土製勾玉

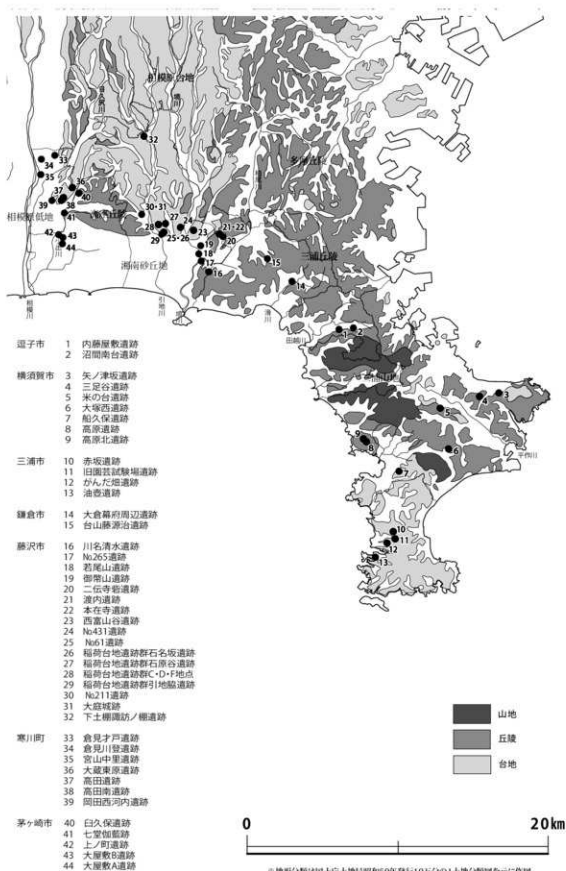
三浦半島地域：三浦市油壺遺跡5号住居址：ヤス（鉄製）、横須賀市高原遺跡Y10B・17・232号住居跡：子産石、同Y171・208A号住居跡：銅鏃・子産石、同Y175号住居跡：銅環、同Y208B号住居跡：銅鏃、横須賀市高原北遺跡：ガラス小玉

おわりに

今回は逗子市・横須賀市・三浦市・鎌倉市・藤沢市・寒川町・茅ヶ崎市・座間市における竪穴住居の集成と分析を行った。今後も神奈川県内における竪穴住居のデータベースの作成作業を継続する。県内各地域または市町村ごとの分析を行ったのち、過去に行った集成のデータを含めて総合的な分析・比較を行う予定である。

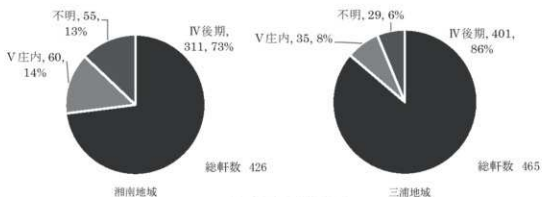
第1表 対象道筋一覧表

No.	市町	道筋名	軒数	発行団体	発行年	出 典
1	逗子市	内藤屋敷	1	逗子市教育委員会	2009	『神奈川県逗子市埋蔵文化財発掘発見調査報告書4』
2		沼間倉倉	3	沼間倉倉遺跡発掘調査団	2004	『沼間倉倉遺跡（逗子市933遺跡）発掘調査報告書』
3		矢ノ塚倉	8	財団法人小笠原考古学研究所	2006	『高尾塚倉倉跡ノ塚倉遺跡』小笠原考古学研究所調査報告書198
4		三笠倉	25	鎌倉市立吉田地区埋蔵文化財発掘調査団	1997	『鎌倉市立吉田・吉田地区遺跡群1』
5		矢の台	7	山崎考古学研究所	1986	『矢の台遺跡発掘調査報告書』
6	横須賀市	丸屋西	5	鎌倉リサーチパーク計画施設整備事業地区内埋蔵文化財発掘調査団	1997	『鎌倉リサーチパーク計画施設整備事業地区内埋蔵文化財発掘調査報告書』
7		船久保	2	株式会社アーク文化研究所	2011	『船久保遺跡』神奈川県埋蔵文化財発掘発見調査報告書19
8	高尾区	高尾遺跡	299	高尾の丘陵遺文化財発掘調査団	2003	『高尾の丘陵遺文化財発掘調査報告書』
9		高尾北遺跡	12	高尾の丘陵遺文化財発掘調査団	2003	『神奈川県埋蔵文化財発掘発見調査報告書』
10	三浦市	津賀	1	二浦市教育委員会	2002	『津賀遺跡-第1次調査発掘発見調査報告書』二浦市埋蔵文化財発掘発見調査報告書13
2			二浦市教育委員会	2008	『津賀遺跡-大地区として第10次調査発掘発見調査報告書』二浦市埋蔵文化財発掘発見調査報告書13	
3			二浦市教育委員会	2008	『津賀遺跡-大地区として第11次調査発掘発見調査報告書』二浦市埋蔵文化財発掘発見調査報告書13	
4			二浦市教育委員会	2010	『津賀遺跡-第22次・第23次調査発掘報告書』	
5			二浦市教育委員会	2012	『津賀遺跡-大地区として第12次調査発掘発見調査報告書』二浦市埋蔵文化財発掘発見調査報告書13	
11	鎌倉市	日置宮武蔵遺	3	有明社会共済考古学研究所	2011	『日置宮武蔵遺跡』
12		日置宮	8	三ツ地区埋蔵文化財発掘調査団	2006	『三ツ地区遺跡群』
13		日置倉	3	二浦市教育委員会	2007	『日置倉遺跡』二浦市埋蔵文化財発掘発見調査報告書11
14		丸倉倉庫跡	23	有明社会共済埋蔵文化財発掘調査団	2007	『丸倉倉庫跡埋蔵文化財発掘調査報告書-第1ノ14 日置宮地区』
15		山山遺跡	2	山山遺跡発掘調査団	1993	『山山遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』
16	鎌倉市	山山遺跡	2	山山遺跡発掘調査団	1996	『山山遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』
17		川毛遺跡	10	津本遺跡発掘調査団	2009	『鎌倉市川毛津本遺跡発掘調査報告書』
18		丸ノ内	2	鎌倉市教育委員会	2007	『鎌倉市丸ノ内遺跡発掘調査報告書』
19		野田山	9	東国歴史考古学研究所	1986	『神奈川県鎌倉市野田山（鎌倉市963）遺跡-藤沢市丸ノ内小学校内地区-発掘調査報告書』
20		野田山	36	財団法人小笠原考古学研究所	2006	『野田山遺跡』小笠原考古学研究所調査報告書207
21	鎌倉市	二軒寺倉	21	東国歴史考古学研究所	1989	『二軒寺倉遺跡発掘調査報告書』
22		二軒寺	13	二軒寺遺跡発掘調査団	1993	『二軒寺遺跡発掘調査報告書』
23		本倉倉	2	鎌倉市教育委員会	1996	『鎌倉市文化財調査報告書』第33号
24		西宮倉	9	鎌倉市教育委員会	2012	『鎌倉市内埋蔵文化財発掘発見調査報告書』
25		丸ノ内	1	鎌倉市教育委員会	2006	『丸ノ内遺跡』No.102遺跡、No.113遺跡、No.302遺跡発掘調査報告書』
26	鎌倉市	鎌倉台地遺跡群6-1	1	山田文化財研究所	2005	『鎌倉台地遺跡群6-1発掘調査報告書-中環遺跡第1地点、6-1a発掘調査第4地点』
27		鎌倉台地遺跡群6-1a	30	大成エスジェイアール株式会社	2012	『鎌倉台地遺跡群6-1a発掘調査-第7次調査-発掘調査報告書』
28		鎌倉台地遺跡群6-1b	12	山田文化財研究所	2005	『鎌倉台地遺跡群6-1b発掘調査報告書-第3次調査報告書』
29		鎌倉台地遺跡群6-1c	49	鎌倉台地遺跡群発掘調査団	1996	『鎌倉台地遺跡群6-1c発掘調査報告書-IC-10地点、F地点、S地点』
30		鎌倉台地遺跡群6-1d	14	鎌倉市教育委員会	2012	『鎌倉市内埋蔵文化財発掘発見調査報告書』
31	鎌倉市	No.111	3	鎌倉市教育委員会	1997	『鎌倉市文化財調査報告書』第33号
32		大塚遺跡	1	鎌倉市教育委員会	2009	『神奈川県鎌倉市大塚遺跡』
33		下土腰遺跡/榎	12	山田文化財研究所	2009	『鎌倉市下土腰遺跡-（三ツ地区）上土腰埋蔵文化財発掘発見調査報告書-下土腰遺跡/榎遺跡第1次調査』
34		下土腰遺跡/榎	12	山田文化財研究所	2017	『鎌倉市下土腰遺跡-（三ツ地区）上土腰埋蔵文化財発掘発見調査報告書-下土腰遺跡/榎遺跡第1次調査』
35		倉見子戸	12	倉見子戸遺跡発掘調査団	1999	『倉見子戸遺跡発掘調査報告書-第1次調査』
36	寒川町	倉見子戸	12	倉見子戸遺跡発掘調査団	2001	『倉見子戸遺跡第1次調査発掘調査報告書』
37		倉見子戸	33	財団法人小笠原考古学研究所	2015	『倉見子戸遺跡第1次調査』小笠原考古学研究所調査報告書309
38		倉見子戸	4	財団法人小笠原考古学研究所	2003	『倉見子戸遺跡群-倉見子戸遺跡-第7次調査-発掘調査報告書』
39		大塚東部	1	大塚東部遺跡発掘調査団	1997	『大塚東部遺跡第7次発掘調査報告書』
40		大塚東部	1	株式会社アーク・ファームドワーシステム	2011	『大塚東部遺跡発掘調査報告書-第11次調査』
41	茅ヶ崎市	高尾南	1	株式会社アーク・ファームドワーシステム	2012	『高尾南遺跡発掘調査報告書-第1次調査』
42		高尾南	2	山田文化財研究所	2014	『高尾南遺跡発掘調査報告書』
43		高尾西内	9	（有）倉考古学研究所	2012	『神奈川県高尾町埋蔵文化財発掘調査報告書』
44		日丸倉	45	財団法人小笠原考古学研究所	1999	『日丸倉遺跡』小笠原考古学研究所調査報告書60
45		土腰倉	1	財団法人小笠原考古学研究所	2010	『小笠原川河内遺跡群遺跡群第9-6号土腰倉遺跡』小笠原考古学研究所調査報告書211
46	茅ヶ崎市	土腰倉	3	財団法人小笠原考古学研究所	2003	『土腰倉遺跡』小笠原考古学研究所調査報告書103
47		大塚東部	1	株式会社アーク・ファームドワーシステム	2010	『茅ヶ崎市大塚東部遺跡第5次発掘調査報告書』

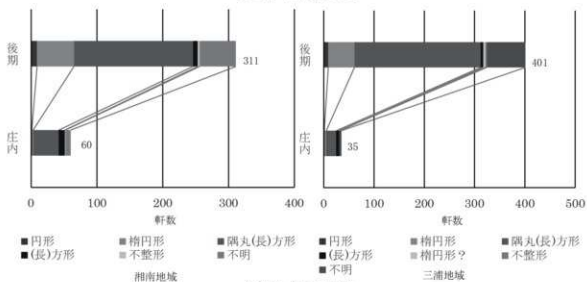


第1図 対象遺跡分布図

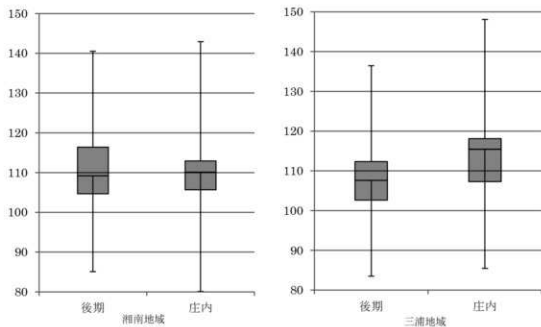
弥生時代後期型穴住居の研究（4）



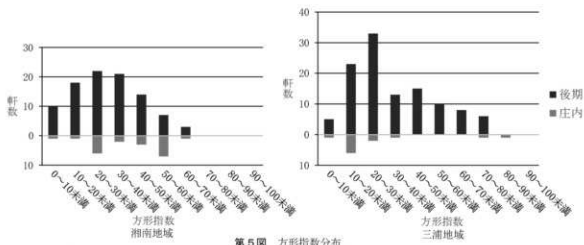
第2図 時期別住居軒数



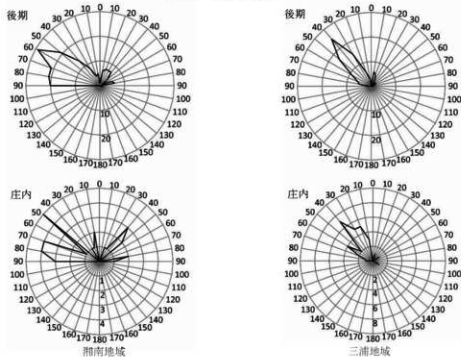
第3図 住居平面形態



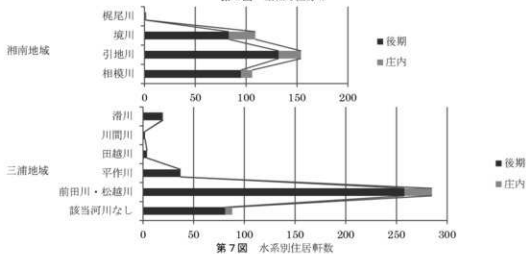
第4図 長短率



第5図 方形指数分布



第6図 主軸方位分布



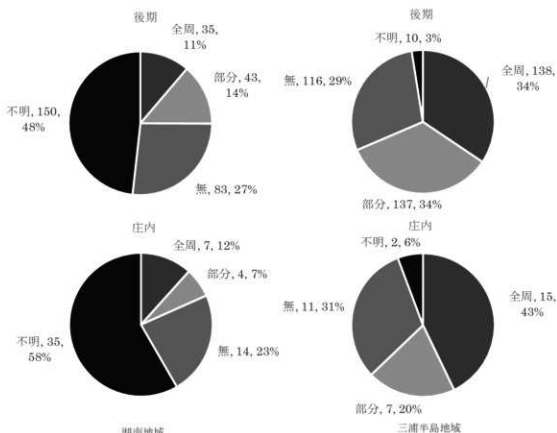
第7図 水系別住居軒数

第3表 跡形態

湘南地域					三浦地域				
後期	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)	後期	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地球伊	131	73.6	42.1		地球伊	129	46.4	32.2
	枕石伊	21	11.8	6.8		枕石伊	140	50.4	34.9
	枕粘土伊	4	2.2	1.3		枕粘土伊	1	0.4	0.2
	粘土板伊	22	12.4	7.1		粘土板伊	5	1.8	1.2
小計	178	100.0	57.2	小計	278	100.0	69.3		
庄内	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)	庄内	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地球伊	25	80.6	41.7		地球伊	11	44.0	31.4
	枕石伊	1	3.2	1.7		枕石伊	12	48.0	34.3
	粘土板伊	5	16.1	8.3		枕粘土伊	2	0.7	0.5
	小計	31	100.0	51.7		小計	25	100.0	71.4

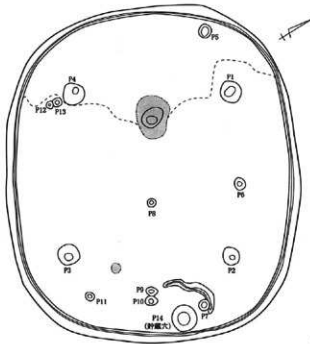
第4表 主柱穴本数

湘南地域					三浦地域				
後期	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)	後期	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	0本	50	28.9	16.1		0本	2	0.8	0.5
	1本	2	1.2	0.6		1本	1	0.4	0.2
	2本	2	1.2	0.6		2本	1	0.4	0.2
	4本	119	68.8	38.3		3本	4	1.5	1.0
	小計	173	100.0			4本	251	96.5	62.6
庄内	主柱穴数	軒数	割合(%)	確認数/住居総軒数(%)	庄内	主柱穴数	軒数	割合(%)	確認数/住居総軒数(%)
	0本	9	28.1	15.0		4本	27	96.4	75.0
	1本	1	3.1	1.7		6本	1	3.6	2.8
	4本	22	68.8	36.7		小計	28	100.0	
	小計	32	100.0						

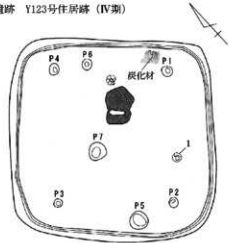


第8図 周溝の有無

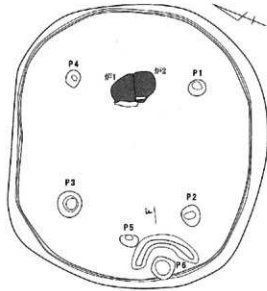
船久保遺跡 Y2号竪穴住居跡 (IV期)



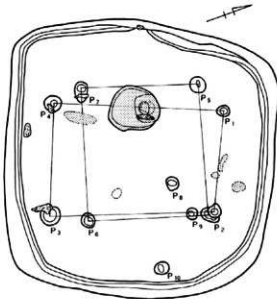
高原遺跡 Y123号住居跡 (IV期)



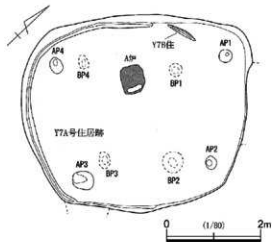
高原遺跡 Y182号住居跡 (IV期)



三足谷遺跡 1号住居跡 (IV期)

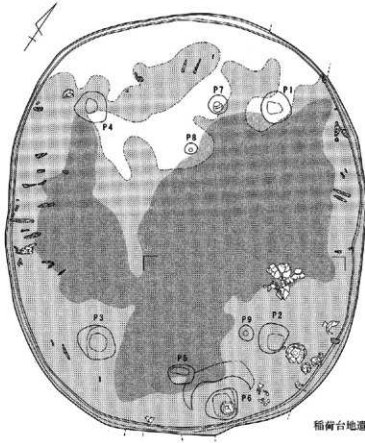


高原北遺跡 Y7A・Y7B号住居跡 (IV期)

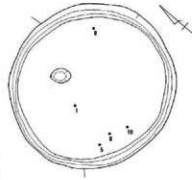


第9図 竪穴住居跡平面図 (1)

高原遺跡 Y8号住居跡 (IV期)

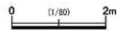
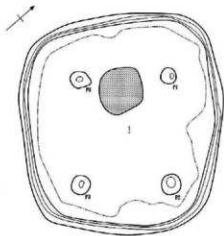
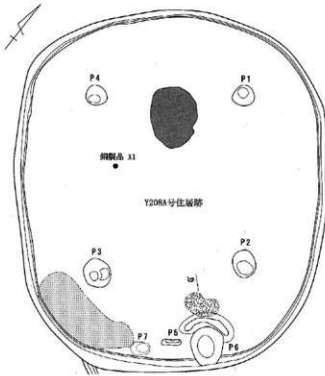


稲荷台遺跡群F地点 25号住居址 (IV期)



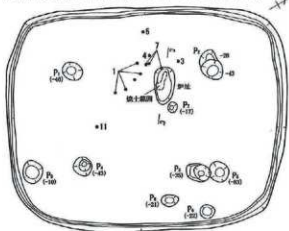
稲荷台遺跡群石名坂遺跡第7次 16号住居址 (IV期)

高原遺跡 Y208A号住居跡 (V期)

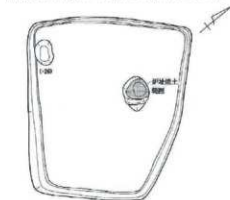


第10圖 竪穴住居跡平面図 (2)

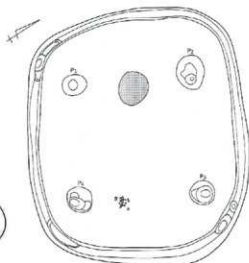
稲荷台地遺跡群石原谷遺跡第3地点 2号住居址 (IV期)



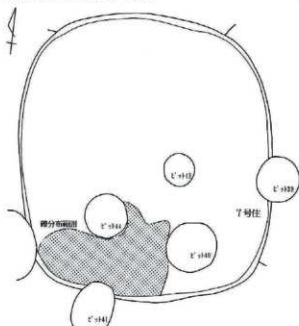
稲荷台地遺跡群C・D地点 24号住居址 (V期)



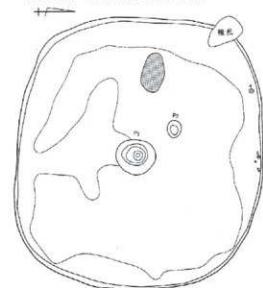
臼久保遺跡 Y43号壑穴住居址 (IV期)



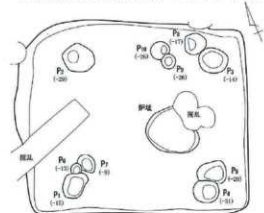
若尾山遺跡 7号住居址 (V期)



臼久保遺跡 Y21号壑穴住居址 (V期)



下土欄諏訪ノ棚遺跡第4次調査 Y2号住居址 (V期)



0 (1/80) 2m

第11圖 壑穴住居跡平面図 (3)

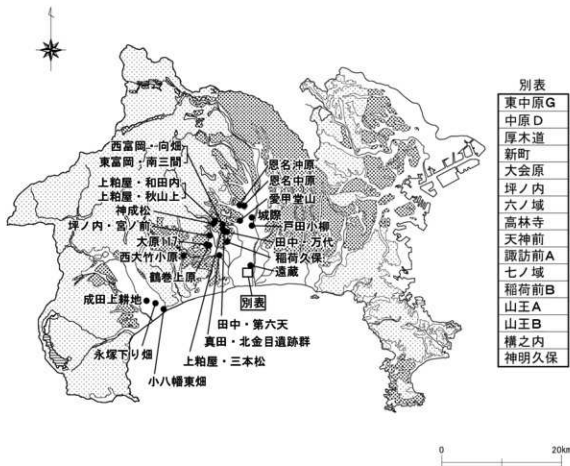
神奈川県における古代の仏教関連遺物（3）

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

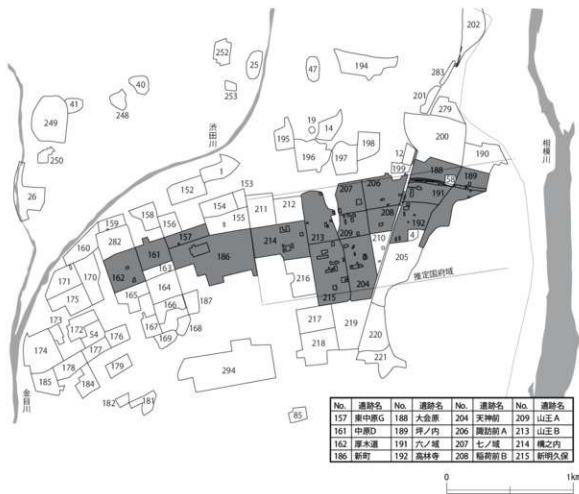
はじめに

奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、2年にわたり仏教関連遺物の集成を行ってきた。その目的は、神奈川県内において2000年の「考古学から古代を考える会」による『古代仏教系遺物集成・関東』の集成以降に蓄積された資料の集成と分析である。そのため、2000年から2016年までに刊行された報告書に掲載されている仏教関連遺物の器種別による分類、集成を行った。それにより神奈川県内における多種多様な仏教関連遺物を確認することができた。

今年度は、仏教関連遺物を出土した遺跡を相模川以東、以西、国府域の3エリアに分け、出土する地域、出土する遺構などの傾向と特徴を分析するとともに、遺物の組成と遺跡、遺構との関係を検討しまとめとする。



第1図 仏教関連遺物出土遺跡



第2図 国府域における仏教関連遺物出土遺跡

【相模川以東】

相模川以東は横浜市と川崎市の武蔵国エリアと、その他の相模国エリアが存在する。特に2000年以降は武蔵国エリアである川崎市の橋本街と、相模国エリアでは茅ヶ崎市の下寺尾官衙遺跡群で国指定史跡に向けた調査・整備が進み資料の増加がみられる。相模川以東で集成した遺跡は武蔵国エリアにある横浜市2遺跡、川崎市の4遺跡を含む11市町、28遺跡（地域）にのぼる。横須賀市では乗越遺跡の竈址、逗子市3遺跡、藤沢市3遺跡、綾瀬市2遺跡、大和市1遺跡、海老名市2遺跡、茅ヶ崎市は8遺跡（地点）、寒川町2遺跡、相模原市1遺跡である。

まずは特徴的な遺物について触れてみたい。関連遺物のうち最も直接的に仏教を表すのは『寺』や『佛』の文字を含む墨書土器であると言える。集成ではすべて土師器坏に墨書されている。墨書は計17点出土しており、大和市の中ノ原遺跡からは刻書の『寺』が1点出土している。川崎市岡上-4遺跡では13点出土したが、そのうちH-17住居址から『寺』7点、『万寺』1点の8点がまとまって出土している。七堂伽藍の河道出土以外はすべて墾穴住居址からの出土である。藤沢市の南鍛冶山遺跡では『佛』『佛奉』が各1点出土している。そのほか茅ヶ崎市の雑谷地区、大和市中ノ原遺跡8地点からも『寺』が各1点出土している。瓦塔は4遺跡から出土している。七堂伽藍からは土製の瓦塔片2点のほか、陶製の相輪も5点出土している。海老名市の河原口坊中遺跡では土製の瓦塔片10点が集落から出土している。そのほか川崎市の千年-1遺跡

から2点、寒川町の宮山中里遺跡から陶質の露盤と推測される瓦塔片が1点出土している。高盤は須恵器製が大半であるが同一4遺跡からは須恵器製2点とともに土師器製が出土している。横須賀市の乗越遺跡の窯から10点出土しており、ここで焼成されていたことが判明している。今後この製品がどのように供給されていたかを追求することも課題の一つになるであろう。仏教関連遺物の金属製品も若干ではあるが増えている。七堂伽藍からは青銅製の軸端と匙などお寺の生活あるいは修行を彷彿させる遺物である。相模原市の田名半在家遺跡G地点からは雲龍文八花鏡の小片が住居址から出土している。

各遺跡から仏教関連遺物を考察するには資料が少ない場合が多い。その中で冒頭にもあげた下寺尾官衙遺跡群に含まれる七堂伽藍が古代寺院址ということもあり資料が集中している。近年調査研究が進み、2000年以降だけでも須恵器の仏鉢型土器や手付瓶や小型壺、小型瓶、長頸壺、獸脚、香炉、灰桶の浄瓶、手付瓶、小型瓶、長頸瓶、ミニチュア長頸瓶、二彩陶器の葉壺や葉壺蓋、小型瓶、火舎、土師器瓦塔、陶製相輪、『太寺』の墨書がある土師器杯、青銅の軸端と匙が出土している。種類も量も豊富である。この遺跡から出土した遺物が、集落から出土する仏教関連遺跡と推測される遺物の指標となることは間違いない。集落遺跡でも人面墨書土器などが出土している藤沢市の南鍛冶山遺跡の墨書土器の増加や、海老名市河原口坊中遺跡の瓦塔や緑釉香炉蓋を含む関連遺物の比較的蓄まった資料の増加などがみられる。古代寺院との関係性や集落内に村落内寺院が存在した可能性など、興味深い遺跡である。集落遺跡の場合、関連する遺構が見えきれ総合的に研究をしていくことが課題となろう。(加藤久美)

相模川以西

相模川以西の地域では仏教関連遺物が出土する遺跡数は少なく、厚木市2遺跡、伊勢原市6遺跡、秦野市3遺跡、小田原市3遺跡である。遺物は単独で出土する傾向があることも特徴としてあげられる。複数の遺物が出土している遺跡としては、伊勢原市では坪ノ内・宮ノ前遺跡(No.16・17)3号溝出土の瓦塔と銅碗、小田原市では永塚下り畑遺跡H1号道状遺構出土の灰軸陶器水瓶と須恵器唾壺?である。

出土する地域としては、前回までの集積の傾向と変わらず、伊勢原市、小田原市が主となっている。小田原市は千代庵寺の存在が古くから知られており、永塚下り畑遺跡の道状遺構からの仏教関連遺物出土は前回までの集積成果に準じるものであった。一方、伊勢原市では前回の集積では経塚や古墳出土の遺物が半数を占めていたが、今回の集積では溝、土坑、堅穴状遺構、切土整地層からの出土が確認された。調査事例の増加に起因していると思われるが、坪ノ内・宮ノ前遺跡では、溝から複数の瓦塔片と銅碗が出土していることが注目される。西富岡・畑畑遺跡第2地点切土整地層出土の灰軸陶器把手付瓶や神成松第5地点H17号土坑出土の緑釉陶器小型壺など単体で出土するものも見受けられた。秦野市では、西大竹小原・西大竹尾尻遺跡郡の97AISI08から墨書土師器杯『西寺』カが出土しており、今後の資料の増加が望まれる。周辺地域の遺構遺物の出土状況も踏まえて地域の検討をしていく必要がある。(諏訪直子)

【国府城】

国府城は、かねてより多くの仏教系遺物が出土することで知られている。2000年の富永氏による集成時においても、「平塚市の推定国府関連遺跡」と「川崎市から横浜市北部」の二箇所にも仏教関連遺物出土地の核がある、と指摘している（富永2000）。また、平成15（2003）年に刊行された『平塚市史』においても仏教関連遺物が集成されており、国府城および国府周辺に該当する22遺跡から出土しているとまとめている（田尾2003）。この中で提示している遺跡ごとの仏教関連遺物出土傾向の表に今回の事例を追加したものが第1表である。

いわゆる相模国府城の範囲は、東西約2.1km、南北約800mの長方形の範囲を想定されている。国府は国府城の東方にあたる六ノ城遺跡から大型掘立柱建物が確認されており、国庁船殿として想定されている。この想定されている区域の外側からも「曹司」の墨書や、大型掘立柱建物跡などが確認されており、堅穴住居の密集度も含めて武蔵国府城のようなもう少し広い国府城を捉えるべきではとの見解もある（江口2014）。よって、今回国府城としたエリアは、市史では国府周辺とした遺跡も国府城として捉え、一覧にまとめた。

集計表を見て注目すべきは瓦塔の出土地がままとまっていることであろう。その他の仏教関連遺物は満遍なく出土している傾向が認められるが、神明久保遺跡にのみ瓦塔が集中して出土している。神明久保遺跡は国庁の南西約1kmに位置し、鉄葬や輪の羽ノなど鉄生産に関連する遺物が多く出土していることから国衙に付属する鍛冶工房として考えられている。神明久保遺跡から出土する瓦塔の解釈として、市史では鉄生産に関係する工房跡と想定されていることから「神明久保遺跡には金属器生産の工房群が想定されており、国府集落内の仏教信仰、あるいは工人集団と仏教信仰の関わりを示唆するものであろうか」と指摘している（田尾2003）。瓦塔が出土するのは神明久保遺跡の第3・7・8・9地点からで、遺跡の南東寄りを中心とした出土傾向が認められる。8地点では堅穴建物からままとって出土し、出土した瓦塔は池田分類の大仏類型に相当する（池田1999）。掘立柱建物が密集する地区でもあり、御堂に相当する遺構を再検証する必要があるだろう。鍛冶工房は東に隣接する天神前遺跡でも確認されており、天神前遺跡の鍛冶工房は8世紀初頭～9世紀が主体、神明久保遺跡は9～10世紀が主体となる鍛冶工房として考えられ、一体が連続と続く鍛冶工房エリアであったことがわかる。瓦塔はこの他、東中原G遺跡からも出土している。東中原G遺跡は国庁より約2km西側に位置し、国府造営時にかかわる運河として考えられる幅8mの大溝や、4×4間の大型掘立柱建物が確認されている他、堅穴建物から馬具が出土している集落遺跡である。特に瓦塔以外の仏教関連遺物がみられないことから、位置づけが難しい。

次に国府城全体をみてみると、六ノ城、高林寺、大会原、構之内、諏訪前A、神明久保、天神前、山王A遺跡から比較的集中して出土している傾向にある。特に大会原、六ノ城、高林寺遺跡は南北に隣接する遺跡であり、国庁に最も近いエリアである。まさに六ノ城遺跡は国庁の範囲であり、壺Gが六ノ城から集中して出土している点に注目される。壺Gは細頸の須恵器の壺であるが、その用途は現在のところ3つにまとめられる。一つは、壺Gの生産地が東海であることから東国からの衛士や徴兵された兵士の携帯用の水筒であるとの考え方、「延喜式」などにみられる租庸調の「堅魚煎汁」をいれて都へ運ぐための器という考え方、そして、観音菩薩像にみられるような仏様の花瓶、という考え方である（三好2016）。都城では運河や一般邸宅からの出土が多く、寺院などから出土は少ないようである。都城で出土した壺Gの中には「九合三夕」の墨書が書かれたものがあり、壺Gが花瓶専用の器ではなく、何か液体をいれる器としての利用があったことを示している。古代寺院などで出土している場合は仏具としての考え方が適切かもしれないが、国府や都衙などの

公的施設からの出土事例は仏具というより実用的な利用を検討する方が妥当ではないだろうか。六ノ城が国庁エリアである、ということも裏付けとなろうかと思われる。とはいえ、六ノ城では観音像が出土していることから何らかの信仰対象物がおかれた建物の存在は想定される。ただ、軒瓦を含め瓦の出土量が全体的に少なく、軒先を飾っていた建物構造であったとは考えにくい。瓦の出土傾向からみて屋根は部分的、例えば大棟など棟の部分だけ葺いていたような建物であったと推測されよう。

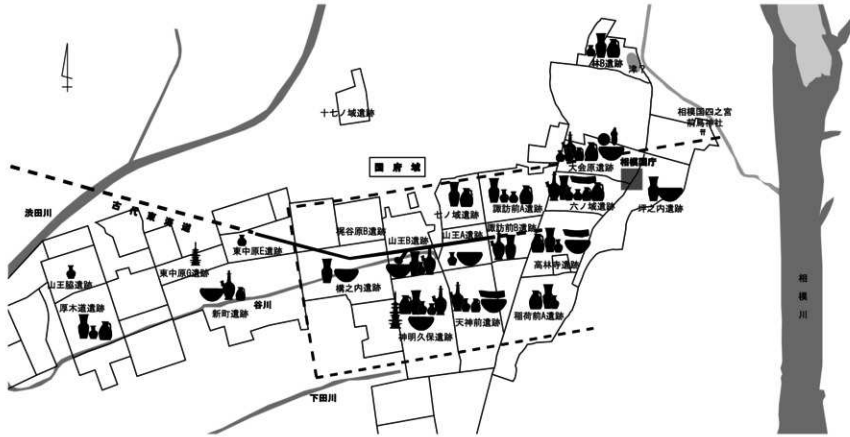
では、国府城から出土する仏教系遺物についてどう考えていけばよいか。2000年の集成時に富永氏は平塚で多量に出土する背景として寺院の存在だけでは説明がつかず、物流が多かったことと仏器を高級什器として使用することが多かったのではと述べている（富永2000）。他国はどうであったのか、武蔵を参考にして考えてみたい。

隣国武蔵国府城の様相は、相模国府城同様、仏教関連遺物が出土している。武蔵国府は、国庁域を中心に立川段丘崖に沿って東西に展開し、東西6.5km、南北最大1.8kmの範囲が想定されている。国庁域の東に隣接して多磨寺がある。創建瓦から8世紀初頭前後創建とされ、国庁域が整備される以前に建立された寺院と考えられている。この他、国庁域の北西1kmのエリアにおいて、仏堂と推定される遺構が確認されている。四面庇の掘立柱建物で、周辺では寺堂の存在を直接示すような墨書土器などは出土していないが、スガが付着した灯明皿が出土していること、また灰軸陶器の浄瓶が出土していることから仏堂が想定されている（深澤2006）。

この仏堂から南東の地点において瓦塔が出土している。出土したのは掘立柱建物や堅穴建物から出土したもので、瓦塔は池田分類によると上西原類型にあたる。瓦塔安置建物としては掘立柱建物が想定されている。この他、国庁域西方1.2kmの地点からも出土している。掘立柱建物と堅穴建物から出土している破片で、東郡台類型に分類される。武蔵国府城で出土した瓦塔の様相から深澤氏は「国府での瓦塔の造立は、村落での仏教信仰の隆盛と共通した流れのなかで出現したもので、同時のネットワークに組み込まれていたと判断できる」とし、国府中心に造立した瓦塔及び瓦塔安置建物は、周辺に工房などがまとまっていることから、本貫地を離れてきた人たちの精神的な支えとなるよう国府のマチの中に営まれた、と述べている。この他、国府城の外で造立された瓦塔はおよび瓦塔安置建物は、僧侶たちによって設置運営されたとし、民衆強化を目指す僧侶の活動拠点の場としていたのではと推測する。

武蔵国府事例を参考に相模国府城の事例を考えてみると同様な傾向がみられる。つまり、鍛冶工房などの官営工房エリア近隣もしくは中心で瓦塔が出土していることから、遠く離れた人達の精神的な支え、という考え方が当てはまるように見える。しかし、工房が主体となる時期と瓦塔の製作年代に少々時期差があり、武蔵国府事例のような工房へ集う集団のための信仰の拠り所とするには少々難しい。ただ、神明久保の主体となる時期は9～10世紀ではあるが、隣接する天神前の主体となる時期は8世紀初頭～9世紀と瓦塔製作年代と近い時期である。神明久保遺跡からは、瓦塔の他、仏教関連遺物が国庁周辺遺跡と同様に万遍なくみられることも考えると、なんらかの信仰対象があったことは想定される。瓦塔造立の背景として、工人達の信仰の拠り所、新たな開発地への畏怖という側面ももつ。神明久保・天神前が開発＝国府造営のための官営工房を担う工人が先駆的にはいったエリアであり、彼らの信仰対象物がおかれた結果と考えたい。

以上、雑駁ではあるが、国府城の様相について述べた。仏教関連遺物としての中には用途の異なるものも想定される可能性を指摘した。国府城では、壺6などいわゆる仏具としてすべてみるのではなく、出土した遺跡の性格によって遺物を検討することも必要であろう。（高橋 香）



第3圖 国府城広敷遺跡遺物分布図

神奈川県における古代の仏教関連遺物（3）

第1表 国府城仏教関連遺物集計表

遺跡名	瓦 塔	漆 書・ 刻 書	佛 鉢・ 鉄 鉢 形	水 瓶・ 淨 瓶	壺 G	小 型 長 頸 瓶	小 型 手 付 瓶	小 瓶	手 付 瓶	短 頸 壺・ 壺	小 型 短 頸 壺・ 壺	善 伊 ・ 蓋	三 足 盤	線 軸 小 壺・ 小 瓶	線 軸 壺・ 瓶	二 彩・ 三 彩	須 恵 器 そ の 他	土 師 器 そ の 他	灰 軸 そ の 他	線 軸 そ の 他	金 属 製 品	
高林寺		1	1		4	7			3	5	3	6			1	1	2	2			1	3
下ノ郷原寺													1	1	1						1	
六ノ城		3		5	11	17	5	1	6	15	4	5		1	3	2	6		3	1	6	
諏訪前A		1			2	13		2	1	7		2		1		1						
諏訪前B				1	1																	
稲荷前A		3			1	1			1	3												
坪ノ内			1		1					4	1						1					
梶谷原B										1												
山王A		2				2				3	1						1	1				1
山王B			1	1	1	2				2				2								1
天神前		1	3	1		1	2			2			1									
神明久保	42	1	2	3	1	7		3	1		4											1
構之内			3	1		5	2			1	1	1		1			2					1
大会原		1	1	4	6	2	1	5	4	10				1			1		3	2		
林B				3				1	1	1												
厚木道				1	4					1	4	2			2							1
新町			1	2			1															
山王脇						2																
七ノ城				1					1													
東中原E								1														
東中原G	1																					
道半地															1							
本宿B					1					3												
十七ノ城										5												
中原D																	1					
達上ヶ丘					1																	
南原B						1																
中里E						1																
御殿D			1																			
諏訪町C			2																			
根岸B					1																	
王子ノ台			2						1	1												
真田・北金目	8	10	1	4	4	14	3		5	8	3	1	1	1	1		5	3			3	
向原		1	1	1		4				1	1											

奈田尾2003一部改変・追記

【参考文献】

池田敏宏1999「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討―関東地方瓦塔屋蓋部編年の検証作業を中心に―」『研究紀要』第7号 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター

江口 柱2014「第5節 東国における国府景観と道路網」『古代武蔵国府の成立と展開』同成社

田尾誠敏2003「三 仏教系遺物」『平塚市史』11下別編考古(2) 平塚市博物館市史編さん

富永樹之2000「神奈川県」『古代仏向系遺物集成・関東』一考古学のあらたなる開拓をめざして一 考古学から古代を考える会

平塚市博物館2010『検証 相模国府―古代都市復元への挑戦―』平成21年度 春期特別展

深澤靖幸2006「国府のなかの寺と堂―武蔵国府跡の発掘調査事例から―」『府中市郡士の森博物館紀要』第19号

三好美穂2016「東海の瓶」『奈良を掘る』奈良市教育委員会

第2表 仏教関連遺物出土遺跡一覧

所在地	遺跡名	遺構・遺形	出土遺構	参考文献
橿原市	種田原遺跡	土師器鉢鉢(1・2)、須恵器瓦葺遺(83)	住居址	鈴木重信・吉原紀之ほか2013『種田原遺跡IV』東北ユニウータン地域内閣文化財調査報告書、公益財団法人橿原市ふるさと歴史財団所蔵『文化財センター』
	大原遺跡	須恵器小型器(89)	住居址	鈴木重信・吉原紀之ほか2011『大原遺跡』東北ユニウータン地域内閣文化財調査報告書、公益財団法人橿原市ふるさと歴史財団所蔵『文化財センター』
川崎市	園上-4遺跡	土師器高墩(96)、須恵器高墩(97・98)、『方令』土師器鉢(139～147・149～151)、『方令』土師器鉢(148)	住居址	佐藤英夫・河合英夫ほか2001『神奈川原川崎川麻生区麻生区画-4遺跡第2地 発掘調査報告書』同上-4遺跡発掘調査団
	千年-1遺跡	土師器瓦葺(116-117)	表構	吉野真由美2003『川崎市高津区千年-1遺跡探査の瓦葺について』『川崎市市民ミュージアム紀要』第10巻
	千年伊勢山台遺跡	須恵器鉢(3)	遺構外	戸田哲也・服部博博ほか2005『大蔵国麻理郡麻生郡千年伊勢山台遺跡-第1～8次発掘調査報告書』川崎市教育委員会
	上麻生日次台遺跡	灰桶陶器片断(40)	住居址	河合英夫・北平朝久ほか2007『川崎市麻生区上麻生日光台遺跡第II地区発掘調査報告書』玉川文化財研究所
橿原市	桑越遺跡	須恵器高墩(99～108)	窯	中三川ほか2012『桑越遺跡』橿原市文化財調査報告書、橿原市教育委員会
	延命寺遺跡	須恵器瓦葺遺(84)	井戸	松山肇一朗2003『延命寺遺跡(京子No.110)発掘調査報告書』東国歴史研究所調査報告書32巻、延命寺遺跡発掘調査団
	蟹田遺跡	須恵器瓦葺遺(85)	溝状遺構	2007『神奈川原川麻生区麻理園文化財緊急調査報告書』平成16年度・平成16年度・平成17年度、京子市教育委員会
	酒子遺跡群	須恵器瓦葺遺(86)	溝状遺構	松田光太郎・松葉崇ほか2011『酒子遺跡群XI』かぶさむ考古学財団調査報告書283、財団法人かぶさむ考古学財団
橿原市	南原治山遺跡	灰桶陶器取手平版(20)、『佛』土師器鉢(182)、須恵器(27)、『佛赤』土師器鉢(183)、須恵器片断(21)	住居址	望月 秀2014-2016-2017『南原治山遺跡群発掘調査報告書』第11・12・13報告書17・18-9、橿原市教育委員会
	宮原百石原遺跡	須恵器鉢(118)	住居址	寺田肇方・西野吉樹ほか2012『神奈川原川麻生区宮原百石原(No.286)発掘調査報告書』橿原考古学研究所
橿原市	石原谷遺跡第3地点	土師器配足(93)	住居址	伊藤英吉・坪田弘子ほか2005『稲荷台地遺跡群石原谷遺跡第3地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
	早川城山地区遺跡群 No.146-1遺跡	須恵器鉢(4)	住居址	戸田哲也・弘地英夫ほか2006『早川城山地区遺跡群発掘調査報告書』早川城山地区遺跡群発掘調査団
	早川城山地区遺跡群 No.13遺跡	灰桶陶器取手平版(28)	遺構外	戸田哲也・弘地英夫ほか2006『早川城山地区遺跡群発掘調査報告書』早川城山地区遺跡群発掘調査団
大和町	中ノ原遺跡1地点	『方』土師器鉢(146)	住居址	佐藤大郎・大嶋正子ほか2014『中ノ原1地点発掘調査報告書』国際文化財株式会社

神奈川県における古代の仏教関連遺物(3)

所在地	遺跡名	遺構・遺物	出土遺構	参考文献
博多市	河原口法持中遺跡 (第1, 2, 4次調査)	須臾部仏鉢(5～7)、瓦輪部器台座または水瓶(19)、須臾部小型壺(41)、須臾部小型長頸瓶(42～43)、瓦輪部小型長頸瓶(44)、須臾部小型(45)、須臾部器座(46)、緑釉陶器香炉(110)、土製品土器(118～127)。	型穴遺構、溝状遺構、溝溝外	無気室焼成高橋利正が2014「河原口法持中遺跡第1次調査」(第2次報告)を中心とした考古学財団調査報告書2014、公益財団法人かながわ考古学財団、博多市。資料は2015「河原口法持中遺跡第2次調査」(第1分冊)かながわ考古学財団調査報告書2017、公益財団法人かながわ考古学財団、河原町支所。高橋利正が2014「河原口法持中遺跡第3次調査」かながわ考古学財団調査報告書2016、公益財団法人かながわ考古学財団。
	国分尼寺北方遺跡	須臾部器座(32)	住居址	津辺 秀一・吉野有美2007「国分尼寺北方遺跡―第二次・28次調査―」日本農業史研究所報告第69冊 日本農業史研究所
茅ヶ崎市	七宝寺遺跡	須臾部仏鉢型土器(8)、須臾部仏鉢(9～13)、瓦輪部器台座(23～25)、緑釉陶器(29)、瓦輪部器取手付瓶(30～31)、須臾部器(34～37)、須臾部器(38)、須臾部小型瓶(60)、瓦輪部小型壺(53)、須臾部小型壺(52～53)、瓦輪部小型壺(54～58)、瓦輪部小型長頸瓶(59)、須臾部小型壺(60)、須臾部小型瓶(61～64-66～67)、瓦輪部小型瓶(65)、須臾部小型長頸壺(68)、瓦輪部小型瓶(69～71)、須臾部小型瓶(72～73)、瓦輪部小型瓶(74)、瓦輪部小型瓶(75)、二彩陶器蓋器(76～77)、二彩陶器短頸壺(89-91)、瓦輪部器台座(92)、須臾部短頸壺(94～95)、土器器香炉(111)、須臾部器座(112)、二彩陶器火舎(113～115)、土製品土器(128～129)、陶製品相輪(131～135)、青銅製品輪蓋(136)、青銅製品蓋(137)、【太寺】土器器坪(155)	住居址、溝、河溝、土器集中遺構、瓦輪部遺構、大型器台座、緑釉建物周辺	小川由人・飯塚泰保ほか2008『小出川川改修事業関連遺跡群 茅ヶ崎市七宝寺遺跡(1)・津田町大曲五瓦輪部』かながわ考古学財団調査報告224、財団法人かながわ考古学財団、阿佐野支所。天野賢一が2010「小出川川改修事業関連遺跡群 茅ヶ崎市七宝寺遺跡(2)」かながわ考古学財団調査報告書281、財団法人かながわ考古学財団、茅ヶ崎市教育委員会2013『下水道管埋設調査の調査～下水道七宝寺遺跡・南屋敷部の調査～』茅ヶ崎市環境文化庁調査報告書
	西方人遺跡	須臾部器(20-23)	溝	津辺一勝・飯塚泰保2007『小出川川改修事業関連遺跡群 茅ヶ崎市西方人遺跡(1)・津田町田内遺跡』かながわ考古学財団調査報告223、財団法人かながわ考古学財団。
茅ヶ崎市	下寺尾西方人遺跡	須臾部器座(100)	住居址	村上吉正・井澤 純ほか2003『下寺尾西方人遺跡』かながわ考古学財団調査報告157、財団法人かながわ考古学財団。
	香川・下寺尾遺跡 町北地区	須臾部器座(122)、瓦輪部小型壺(149)、須臾部器台座(87～88)	河溝下流域、土器器	中村哲也・阿合泰正ほか2005『香川・下寺尾遺跡群 北地区』下寺尾町史、区・構造地区、築地調査報告書』香川・下寺尾遺跡群発掘調査団。
	香川・下寺尾遺跡 新橋台地区	【香】土器器坪(154)	型穴遺構	2005『香川・下寺尾遺跡群北地区・下寺尾地区・橋台地区発掘調査報告書』香川・下寺尾遺跡群発掘調査団。
	上ノ町遺跡	瓦輪部小型瓶(47)	遺構外	宍戸信吾・村上吉正ほか2003『上ノ町遺跡遺跡群』かながわ考古学財団調査報告143、財団法人かながわ考古学財団。
茅ヶ崎市	戸蔵・下ノ町遺跡	須臾部器(48)	住居址	宮下秀之2003『戸蔵、下ノ町遺跡(遺物編)』茅ヶ崎市文化財調査報告書、茅ヶ崎市文化財調査団。
	輪廻八幡宮参道	須臾部器座(90)	住居址	宮下秀之2010『輪廻八幡宮参道』茅ヶ崎市文化財調査報告書23、財団法人、茅ヶ崎市文化財調査団。

所在地	遺跡名	遺構・遺影	出土遺構	参考文献
寒川町	富山中原遺跡	須惠部石鉢(14～15)、瓦輪部銅鉢(16)、 瓦輪部銅鉢(82)、陶製品(瓦器・漆器)(130)	遺構外	高橋香・宮井香(注)2016『富山中原遺跡 III』かたがわ考古学財団調査報告第151号、公認調査法人かたがわ考古学財団、相良真樹・川崎美智子(注)2010『富山中原遺跡 II』かたがわ考古学財団調査報告514、公認調査法人かたがわ考古学財団
	倉見川原遺跡	瓦輪部小形甕(81)	不明遺構	高杉博章・市川正史2015『倉見川原遺跡発掘調査報告書』株式会社「アーク・ワールド」アーケオロジーシステム
相模原市	田島半在家遺跡G地点	須惠部土器付き鉢(鉢)(17)、雲龍文八花鏡(128)	住居址	水野真樹・村本正志2016『相模原市田島半在家遺跡G地点発掘調査報告書』相模原市、奈良大学研究所、内川雄夫・竹田広美(注)2016『田島半在家遺跡発掘調査報告書』相模原市教育委員会
	栗平堂山遺跡	須惠部陶鉢(1)	住居址	沼和の・三ツ野山山遺跡『栗平堂山遺跡』栗平郡小箱遺跡発掘調査報告
厚木市	恵名中原遺跡第3地点	瓦輪部銅鉢(12)	住居址	林原利明・西本正志・南生剛司2010『恵名片原遺跡第2地点 恵名中原遺跡第3地点 発掘調査報告書』長谷川水運跡第3地点 恵名中原遺跡第3地点 発掘調査報告書 厚木市教育委員会
	恵名中原遺跡第7地点	須惠部瓦須恵(179)	住居址	林原利明・西本正志・南生剛司2010『恵名片原遺跡第2地点 恵名中原遺跡第7地点 発掘調査報告書』厚木市教育委員会
伊勢原市	神成谷第5地点	緑釉陶器把平付瓶(26)	土坑	野尻剛敏・相川善徳2014『神成谷第5地点』神奈川県環境文化財調査報告第23号 株式会社ハスコ
	西富岡・向原遺跡第2地点	瓦輪部銅把平付瓶(27・28・43)、緑釉陶器小型甕(110)	切土壁遺構	本野剛敏・吉岡秀雄2010『西富岡・向原遺跡第2地点』神日本農業史研究 究刊
伊勢原市	西富岡・向原遺跡I	須惠部甕(83)	彫穴状遺構	渡辺陽直子・岡本・菊川英也2014『西富岡・向原遺跡I』神奈川考古学財団調査報告第298 公益財団法人かたがわ考古学財団
	田中、第六大遺跡第4地点	須惠部小型甕(84)	住居址	伊藤貴史・立花英2016『田中・第六大遺跡第4地点発掘調査報告書』平成27年度都市計画調査課田中笠原町河原文化財業務 伊勢原市
伊勢原市	田中、万代遺跡	須惠部埋玉(142)	遺構外	野田勇・井辺一徳2001『田中・万代遺跡』かたがわ考古学財団調査報告103 財団法人かたがわ考古学財団
	上柏原・三本松遺跡	須惠部短頸甕(203)	住居址	田尾謙敏・手島真美・諏訪原啓2001『上柏原・三本松遺跡第2次調査発掘調査報告書』伊勢原市内遺跡調査班
伊勢原市	上柏原・和田内遺跡第7次調査	須惠部小型短頸甕(141)	彫切り状遺構 中埋込 おおよそ中層	中村哲也・伊藤貴史他2017『上柏原・和田内遺跡第7次調査』神奈川県文化財発掘調査報告書53 株式会社三川文化財研究所
	船荷久保遺跡第III地点	須惠部瓦須恵(202)	住居址	渡辺陽、吉岡秀雄2006『船荷久保遺跡第III地点3・4次調査』日本農業史研究 究刊調査報告68 日本農業史研究所
伊勢原市	坪ノ内、宮ノ前遺跡(№16・17)	土製品瓦片(285～290)、銅製品銅鉢(312)	溝状遺構	矢野信浩・宮坂博一他2000『坪ノ内、宮ノ前遺跡(№16・17)』かたがわ考古学財団調査報告第77 財団法人かたがわ考古学財団
	鶴巻上原遺跡0702地点	瓦輪長頸甕(88)	溝状遺構	齋木勇雄・島久朝子・三ツ植正人2011『鶴巻上原遺跡0702地点発掘調査報告書』鎌倉遺跡調査委員会報告第66巻

神奈川県における古代の仏教関連遺物(3)

所在地	遺跡名	遺構・遺影	出土遺構	参考文献
藤野市	大道1.1.7遺跡 201003地点 西大竹尻原・ 西大竹尻原遺跡群	須惠器小形壺(014)	堅穴建物	柳川清彦・高杉博明・市川正史2011『大塚1.1.7遺跡201003地点発掘調査報告書』(株)アーク・フィールド・ワークスプレス
	永塚下り須遺跡	瓦輪陶器水甕(110)、須惠器唾壺? (217)	住居址	澤木秀雄・高木順子・田尾誠雄2002、『下曽我遺跡・永塚下り須遺跡』鎌倉市遺跡調査報告書第11号
小田原市	成田上野地遺跡第1地点・ 成田諏訪宮遺跡第1地点	須惠器蓋(小形蓋または短頸蓋?) (178)	唐状遺構	大野賢一・諏訪田直子・長澤邦夫2001『成田上野地遺跡第1地点・成田諏訪宮遺跡第1地点』おなごわ考古学財団調査報告書271、財団法人おなごわ考古学財団
	小八幡家保遺跡第1地点	須惠器長頸瓶(201)	住居址	松山重典・前川昭彦・佐々木通樹2004『小八幡家保遺跡第1地点』小田原市文化財調査報告書第124号、玉川文化財研究所
平塚市	真田・北念日遺跡	須惠器鉢(2)、瓦輪陶器平付瓶(21)、 瓦輪陶器把子付短頸壺(29)、須惠器瓶(31・75・111・134)、 瓦輪器平付瓶(40)、瓦輪陶器瓶(把子)(41・44)、 須惠器瓶(把子付)(42～43)、 須惠器蓋(49・63～64・72～73・77・139・181)、 瓦輪陶器壺(69・115・129)、 須惠器口蓋(71)、須惠器長頸瓶(85・87・98・104)、 瓦輪陶器瓶小形長頸壺(89)、瓦輪陶器長頸瓶(90・99)、 須惠器蓋(小形蓋)(97)、 須惠器短頸壺(130・144・148・174～175・177)、 須惠器蓋(154)、須惠器蓋(短頸瓶蓋?) (186)、 須惠器蓋(159)、瓦輪陶器蓋(167)、 不明土製品(腰掛小?) (172)、須惠器短頸瓶(182)、 瓦輪陶器短頸瓶(184・213)、須惠器蓋(218～219・229)、 土器器蓋(220)、須惠器高付甕(225)、 須惠器蓋付? (232)、土器器蓋所(237)、 須惠器蓋付壺(241)、土器器大甕(243)、 土製品瓦瓦(短頸部)(275～278)、 土製品瓦瓦(短頸部)(277～282・284)、 土製品瓦瓦(短頸部)(283)、 【?】方、土器器坪(291)、【口壺】土器器坪(292)、 【?】中実器土甕(290)、 【?】土器器坪(294～296・298)、 【口壺】土器器坪内甕(299)、 土器器坪置蓋土器【?】(299)、 【?】土器器坪(300)、 【?】土器器坪(301・303)、【傳入】土器器坪(302)、 【?】?土器器坪(304)、陶製品、陶瓶(310)、 陶製品、甕(314～315)	住居址、 ピント、 丹戸址、 溝、 水堀付遺構、 不明遺構、 堀立、 土坑、 遺構外	若林健司・川島清徳・関田雅也2001『平塚市真田・北念日遺跡群発掘調査報告書2』第1・2分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子・川島清徳他2003『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書3』第1・2・3分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2005『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書4』第1・2分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2006『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書5』第1・2分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2007『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書6』第1・2分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2008『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書7』第1・2・3・4・5分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2009『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書8』第1・2分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2010『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書9』第1・2分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会、若林健司・中島由紀子他2011『平塚市真田・北念日遺跡調査報告書10』第1・2・3・4分冊、平塚市真田・北念日遺跡調査委員会

所在地	遺跡名	遺構・遺物	出土遺構	参考文献
平塚市	真田・北念日遺跡群 大久保遺跡第5地点 新町遺跡第5地点	瓦輪器皿(11) 須恵器鉢(赤鉄)13 瓦輪器浄風(17)	土坑 溝状遺構 彫穴住居址	中村哲也・伊藤貴史他2009『平塚市真田・北念日遺跡群大久保遺跡第5地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所 北平朋久2000『新町遺跡第5地点発掘調査報告書』新町遺跡調査団 菅沼圭介・佐藤昌彦他2008『新町遺跡発掘調査報告書』平塚市遺跡調査会
	天神前遺跡第16地点	須恵器鉢(4)、瓦輪器部把手(46～47)、須恵器段(188)	住居址、遺構外	吉岡秀孝他2012『天神前遺跡第16地点』日本考古学研究所報告第78巻(後) 日本産業史研究所 吉岡秀孝他2013『天神前遺跡第16地点』日本産業史研究所報告第78巻(後) 日本産業史研究所
	天神前遺跡	瓦輪器浄風(13)、須恵器短須恵(196)	溝状面までの出土遺物	柴川英次他2009『天神前遺跡』No.204 発掘調査報告書第15地点』株式会社発掘建設
	坪ノ内遺跡	須恵器鉢(赤鉄)15)、瓦輪器鉢(153)、 須恵器蓋(157)、瓦輪器短須恵(191・193)	住居址、土坑、遺構外	柏木善治・依田亮一他2009『坪ノ内遺跡発掘調査』かながわ考古学財団調査報告243 財団法人かながわ考古学財団
	坪ノ内遺跡第5地点	須恵器水甕(7～8)、器G(66)	住居址、遺構外	中嶋由紀子・土原正人他2013『坪ノ内遺跡 第5地点』平塚市埋蔵文化財センター46 平塚市遺跡調査会
	坪ノ内、六ノ塚遺跡	須恵器段(22)	遺構外	菅沼圭介・土原正人他2010『坪ノ内遺跡第5地点』かながわ考古学財団調査報告243 財団法人かながわ考古学財団
	構之内遺跡第5地点A地区	瓦輪器鉢? 6)、瓦輪器手付瓶(24)、 瓦輪器小瓶(152)、須恵器瓶(133)、 須恵器高杯(25～28)	遺構外、遺構外	柏木善治・依田亮一他2009『構之内遺跡発掘調査報告書 第5地点A地区』平塚市遺跡調査会
	神明久保遺跡	浄風もしくは多口瓶注口(14)、瓦輪器浄風(15) 土製品瓦管(須恵器)262-264～266)、 土製品瓦管(須恵器)銅付釘(283)、 土製品瓦管(須恵器)銅付釘(287)、 土製品瓦管(須恵器)1(269)、 土製品瓦管(輪胎)268-270～272)	彫穴遺構、遺構外	近野正幸・加藤千恵子他2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団調査報告100 財団法人かながわ考古学財団
	神明久保遺跡第8地点	瓦輪器浄風(16)、須恵器瓶(76-78)、 瓦輪器長須恵(91)、須恵器段(143)、 瓦輪器部蓋(147)、土製品瓦管(輪胎)247-260)、 土製品瓦管(須恵器)244-246-251～254-256)、 土製品瓦管(斗笠部)249～256-257～259-261)、 土製品瓦管(須恵器?)255)、 土製品瓦管(須恵器?)245)	住居址、溝、不明遺構、遺構外	菅沼圭介・栗山重業他2003『神明久保遺跡 第8地点』平塚市埋蔵文化財センター528 平塚市遺跡調査会
	神明久保遺跡第10地点	土製品瓦管(248)	遺構外	土原正人・中村高志他2006『神明久保遺跡第10地点』ケイ・エイトレード株式会社
	神明久保遺跡第11地点	須恵器蓋G(69)	包首蓋	中村哲也・秋山重業他2013『神明久保遺跡第11地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所

所在地	遺跡名	器種・器形	出土遺構	参考文献
	諏訪川入遺跡	瓦軸部長柄蓋(表C)(153)、須恵器小型長柄蓋(169)	溝、トレンチ	奈良川橋教育委員会2004『神奈川県歴史文化財調査報告46』
	山王入遺跡第5地点	須恵器小型蓋(82)、須恵器短柄蓋(190)	彫穴状遺構、井戸	神木弘己2003『山王入遺跡第5地点』平塚市埋蔵文化財調査報告第16編、平塚市教育委員会
	山王入遺跡第4地点	須恵器蓋(183)、土師器蓋(222)、須恵器盤分(227)、瓦葺埋込(113)	懸柱状遺構、井戸、遺構外	川原清徳・栗山雄輝2006『山王入遺跡第4地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ541、平塚市遺跡調査委員会
	山王B遺跡第6地点	瓦軸部短柄蓋(192)	住居址	菅沼圭介・上原正人2012『山王B遺跡第5・6地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ545、平塚市遺跡調査委員会
平塚市	山王B遺跡	須恵器長柄蓋(86)	住居址	大野悟・栗山雄輝2011『山王B遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ35、平塚市遺跡調査委員会
	厚木遺跡	須恵器蓋(158)	遺構外	大野悟・栗山雄輝2002『厚木遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ36、平塚市遺跡調査委員会
	中野D遺跡第4地点	須恵器短柄蓋(189)	住居址	北平伸久・石川真紀雄2014『中野D遺跡第4地点発掘調査報告書』神奈川埋蔵文化財発掘調査報告書18、株式会社王川文化研究所
	高林寺遺跡第16地点	須恵器短柄蓋(204)	住居址	中村智也・伊藤真志2008『高林寺遺跡第16地点発掘調査報告書』王川文化財研究所
	東中原の遺跡	土製品瓦葺(273)	遺構外	菅沼圭介・上原正人2013『東中原の6遺跡発掘調査報告書第3地』第三、株式会社平塚工務に併せて発掘調査。平塚市遺跡調査委員会

*訂正:『研究紀要2』のページ何言?行目全文とる

*第2表における器種器形は報告書に準ずる

また、第2表器種・器形()内数字については、横浜市・川崎市・藤沢市・鎌倉市・大和市・海老名市・茅ヶ崎市・津久井市・相模原市は『研究紀要2』の原級番号に対して、横本市・伊勢原市・秦野市・小田原市・平塚市は『研究紀要9』の原級番号に対して

*本文の執筆は分担制に相当を明記し、全体の編纂は川崎美佐子が担当した。第1図、第2図は相良英樹が、第2表は西田真由子、川嶋が作成した。

神奈川県 県央地域の中世遺跡 (5)

－かわらけの検討 I－

中世研究プロジェクトチーム

はじめに

これまで、本プロジェクトチームでは、中世の中心である鎌倉市、小田原市以外の県内の中世遺跡の発掘調査報告の集成を行ってきた。現在も県央部では発掘調査が盛んに行われており、特に伊勢原市では多くの中世遺跡が発見され注目されている。県央部から県西部の地域では、中世資料の蓄積もここ数年で著しく増加している状況が見受けられる。

在地の中世を検討する上で重要な遺物は、かわらけであろう。鎌倉と小田原では、かわらけの出土量も多く、これまで数多くの編年案や破片数量計測等が行われ、それぞれの歴史を検討する上で重要な役割を果たしている。一方、この2地域を除く県内では、服部の研究（服部1992など）が大きく寄与しているものの、全体的な出土量も少なく、研究は低調であった。本プロジェクトチームでも研究紀要2～7でかわらけの集成を行い、当時の成果をまとめている。この集成から約20年の時が経ち、今後の整理作業等に向けての準備として、追加の集成を行うことにしたい。

例言

1. 神奈川県内の県央・県西地域については、明確な地域区分があるわけではない。今回は、厚木市の遺跡の一部を掲載する。
2. これまでの基礎データの集成に基づき抽出を行っているが、集成以降に刊行された書籍については、適宜検討に加えることにしている。文献番号は、研究紀要21の文献に対応する。
3. 研究紀要2～7で取り上げた遺跡については、計測表のみ掲載し、図版の掲載は行っていない。
4. 図版の掲載は、完形または復元により完形となりうる遺物を取り上げた。縮尺は1/3とした。
5. 計測表の項目は、以下のとおりである。
 - (1) 成形：報告書に明記されていない場合は、図版や写真から推測している。
 - (2) 寸法：口径×底径×器高を記載。復元等は（ ）で記した。報告書に記載がない場合は、図版の測量値を〔 〕で記した。手づくねの底径については、報告書に記載されている場合は、それを記した。
 - (3) 残存状況：報告書に記されているとおりとした。
 - (4) 年代：報告書に記載がある場合は記した。
 - (5) 備考：型式の特徴や付着物等が記載されている場合は記した。

【参考文献】

- 服部実喜 1992「南武蔵・相模における中世の食器様相(1)―中世初期の様相―」『神奈川考古』第28号
神奈川考古同人会
- 服部実喜 1994「南武蔵・相模における中世の食器様相(2)―中世前期の様相―」『神奈川考古』第30号
神奈川考古同人会
- 服部実喜 1995「南武蔵・相模における中世の食器様相(3)―中世後期の様相Ⅰ―」『神奈川考古』第31号
神奈川考古同人会
- 服部実喜 1995「南武蔵・相模における中世の食器様相(4)―中世後期の様相Ⅱ―」『神奈川考古』第32号
神奈川考古同人会
- ※その他のかわらけの参考文献は研究紀要7「神奈川県内の「かわらけ」集成(6)」に記載

中世研究プロジェクトチーム

第1表 かわらけ集成表(厚木市)

小野若宮遺跡(文献番号 厚木市1)

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	図版82	—	—	—	—	—	写真のみ掲載。

曾野№1遺跡(文献番号 厚木市5)

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	図24-2	1号溝 底部	ロクロ	5.4×6.4×1.6	1/2	16世紀	内底面に指頭によるナグ。戦国期の種小タイプ。
2	図25-6	遺構外	ロクロ	(6.0)×(3.6)×1.9	1/6	16世紀	内底面に指頭によるナグ。戦国期の種小タイプ。
3	図25-7	遺構外	ロクロ	(6.6)×(4.8)×2.2	1/4	16世紀	内底面に指頭によるナグ。戦国期の種小タイプ。

東町二番遺跡(文献番号 厚木市6)

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第7図-1	第9~11遺構面一括	ロクロ	10.2×8.0×2.8	—	16世紀中	16世紀中頃まで糸切りとヘラ切り。
2	第7図-2	第9~11遺構面一括	ロクロ	(8.9)×(6.4)×3.0	—	16世紀中	16世紀中頃まで糸切りとヘラ切り。
3	第7図-3	第9~11遺構面一括	ロクロ	(9.7)×(6.5)×3.0	—	16世紀中	16世紀中頃まで糸切りとヘラ切り。
4	第7図-4	第9~11遺構面一括	ロクロ	(10.0)×(6.7)×2.6	—	16世紀中	16世紀中頃まで糸切りとヘラ切り。
5	第7図-5	第9~11遺構面一括	ロクロ	(10.5)×(7.8)×2.3	—	16世紀中	16世紀中頃まで糸切りとヘラ切り。
6	第7図-6	第9~11遺構面一括	ロクロ	9.5×7.5×2.2	—	16世紀後	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。内定面を幅の広い指頭のような痕跡。溝状凸形。
7	第7図-7	第9~11遺構面一括	ロクロ	(9.1)×6.6×2.5	—	16世紀後	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。内定面を細い棒状工具で整形。溝状凸形。
8	第7図-8	第9~11遺構面一括	ロクロ	9.5×7.3×2.1	—	16世紀後	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。内定面を幅の広い指頭のような痕跡。溝状凸形。
9	第7図-9	第9~11遺構面一括	ロクロ	(10.6)×(8.0)×2.2	—	16世紀後	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
10	第7図-10	第9~11遺構面一括	ロクロ	(10.0)×(7.9)×2.1	—	16世紀後	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
11	第7図-11	第9~11遺構面一括	ロクロ	(9.5)×(6.1)×2.6	—	16世紀後	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
12	第7図-12	第9~11遺構面一括	ロクロ	9.7×5.9×3.3	—	16世紀末	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
13	第7図-13	第9~11遺構面一括	ロクロ	(9.5)×(5.9)×3.1	—	16世紀末	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
14	第7図-14	第9~11遺構面一括	ロクロ	(10.3)×7.2×2.7	—	16世紀末	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
15	第7図-15	第9~11遺構面一括	ロクロ	10.1×7.4×2.4	—	16世紀末	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
16	第7図-16	第9~11遺構面一括	ロクロ	10.4×7.1×2.5	—	16世紀末	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。

神奈川県県央地域の中世遺跡（5）

17	第7図-17	第9～11遺構面一抓	ロクロ	(8.6)×(5.1)×2.1	—	16世紀末	16世紀中頃以降はヘラ切りのみ認められる。
----	--------	------------	-----	-----------------	---	-------	-----------------------

愛甲斎遺跡第2地区（文献番号 厚木市9）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第41図-1	SX-07	ロクロ	12.2×7.2×2.8	1/3	14世紀代	
2	第43図-1	SD-03	ロクロ	7.8×6.2×2.2	2/3	15世紀代	灯明皿に転用。口唇部を片口に整形。
3	第49図-1	SX-02	ロクロ	7.2×4.0×1.8	完存	15世紀以降	灯明皿に転用。口唇部を片口に整形。

小野並木遺跡（文献番号 厚木市17）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	Fig. 8-4	遺構1	ロクロ	(6.0)×3.6×1.6	—	16世紀初頭～中頃	二次的焼成を受ける。
2	Fig. 8-5	第1期焼土層	ロクロ	(8.4)×(5.6)×2.5	—	16世紀初頭～中頃	スノコ痕が残る。
3	Fig. 8-6	第1期焼土層	ロクロ	(10.8)×(7.4)×3.2	—	16世紀初頭～中頃	
4	Fig. 8-7	第1期焼土層	ロクロ	口径(14.2)	口縁部破片	16世紀初頭～中頃	大型品。
5	Fig. 8-13	第1期遺構外	ロクロ	(6.8)×(5.0)×1.8	—	16世紀初頭～中頃	
6	Fig. 8-14	第1期遺構外	ロクロ	(8.2)×(6.5)×2.7	—	16世紀初頭～中頃	見込みがマウンﾄ状に盛り上がる。口唇部にターール付着。基水直下から出土。
7	Fig. 8-15	第1期遺構外	ロクロ	(8.0)×(6.9)×2.1	—	16世紀初頭～中頃	
8	Fig. 8-16	第1期遺構外	ロクロ	(8.8)×(5.6)×1.9	—	16世紀初頭～中頃	
9	Fig. 8-17	第1期遺構外	ロクロ	(9.2)×(4.8)×3.1	—	16世紀初頭～中頃	
10	Fig. 8-18	第1期遺構外	ロクロ	(10.8)×(7.0)×2.2	—	16世紀初頭～中頃	
11	Fig. 8-19	第1期遺構外	ロクロ	(11.4)×(7.4)×2.7	—	16世紀初頭～中頃	口唇部が外反。
12	Fig. 11-6	遺構141	ロクロ	6.4×4.1×2.1	完形	15世紀後半～16世紀初頭	スノコ痕が残る。
13	Fig. 11-7	遺構141	ロクロ	(6.5)×(3.9)×1.8	—	15世紀後半～16世紀初頭	
14	Fig. 11-8	遺構141	ロクロ	6.8×4.4×1.7	完形	15世紀後半～16世紀初頭	スノコ痕が残る。
15	Fig. 11-9	遺構141	ロクロ	7.5×5.4×2.1	完形	15世紀後半～16世紀初頭	
16	Fig. 11-10	遺構141	ロクロ	(8.2)×(3.4)×2.1	—	15世紀後半～16世紀初頭	
17	Fig. 11-11	遺構141	ロクロ	口径(10.8)	口縁部破片	15世紀後半～16世紀初頭	やや厚い。
18	Fig. 14-22	遺構129	ロクロ	(11.0)×(5.8)×3.1	—	15世紀後半～16世紀初頭	二次的焼成を受ける。

中世研究プロジェクトチーム

19	Fig. 15-3	第2期造構外	口タロ	(6.2) × (4.0) × 1.8	—	15世紀後半～16世紀初頭	スノコ痕が残る。
20	Fig. 15-4	第2期造構外	口タロ	(6.8) × (5.0) × 1.7	—	15世紀後半～16世紀初頭	
21	Fig. 15-5	第2期造構外	口タロ	(6.6) × (2.8) × 2.1	—	15世紀後半～16世紀初頭	口縁部内外面にタール付着。
22	Fig. 15-6	第2期造構外	口タロ	(7.6) × (5.4) × 2.1	—	15世紀後半～16世紀初頭	二次的焼成を受ける。
23	Fig. 15-7	第2期造構外	口タロ	7.8 × 4.8 × 2.3	完形	15世紀後半～16世紀初頭	口縁部外反。口唇部にタール付着。
24	Fig. 15-8	第2期造構外	口タロ	(7.8) × (4.2) × 2.2	—	15世紀後半～16世紀初頭	口縁部外反。体部内面最下位にタール付着。
25	Fig. 15-9	第2期造構外	口タロ	7.8 × 5.7 × 2.3	完形	15世紀後半～16世紀初頭	口唇部にタール付着。スノコ痕が残る。
26	Fig. 15-10	第2期造構外	口タロ	9.9 × 6.6 × 2.7	完形	15世紀後半～16世紀初頭	底部から体部にタール付着。
27	Fig. 15-11	第2期造構外	口タロ	(9.8) × (6.6) × 2.3	—	15世紀後半～16世紀初頭	口唇部外反。底部から体部内面にタール付着。
28	Fig. 15-12	第2期造構外	口タロ	(10.0) × (4.6) × 3.0	—	15世紀後半～16世紀初頭	口縁部外反。
29	Fig. 15-13	第2期造構外	口タロ	(11.4) × (7.0) × 2.3	—	15世紀後半～16世紀初頭	口唇部外反。スノコ痕が残る。
30	Fig. 15-14	第2期造構外	口タロ	(9.4) × (4.2) × 3.2	—	15世紀後半～16世紀初頭	口唇部外反。
31	Fig. 15-15	第2期造構外	口タロ	口径(9.8)	口縁部破片	15世紀後半～16世紀初頭	
32	Fig. 15-16	第2期造構外	口タロ	口径(10.0)	口縁部破片	15世紀後半～16世紀初頭	

悪名沖原遺跡（文献番号 厚木市19）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第416図-4	2号溝状遺構	口タロ	— × 7.0 × 1.4	底部依存	13世紀中頃～中葉頃	スノコ痕が残る。
2	第416図-5	2号溝状遺構	口タロ	— × 7.0 × 1.5	底部1/2	13世紀中頃～中葉頃	スノコ痕が残る。
3	第416図-6	2号溝状遺構	口タロ	(8.0) × (7.1) × 1.5	1/4	13世紀中頃～中葉頃	
4	第416図-7	2号溝状遺構	口タロ	— × 7.0 × 1.0	底部2/3	13世紀中頃～中葉頃	

中依知遺跡群（文献番号 厚木市21）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第34図-18	2号塚	口タロ	11.2 × 6.8 × 3.7	4/5	16世紀以降	スノコ痕が残る。
2	第91図-3	A区遺構外	口タロ	5.8 × 5.5 × 2.0	完形	16世紀以降	
3	第106図-7	A2号地下式坑	口タロ	4.8 × 4.6 × 1.5	完形	16世紀以降	
4	第106図-8	A2号地下式坑	口タロ	(9.7) × (7.8) × 2.9	1/8	16世紀以降	

神奈川県県央地域の中世遺跡（5）

5	第106図-9	A2号地下式坑	口ク口	(19.4)×(12.6)×4.4	1/10	16世紀以降	
---	---------	---------	-----	-------------------	------	--------	--

林北遺跡第3地点（文献番号 厚木市24）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	図1-1	試験調査	口ク口	7.6×5.2×2.5	1/2	16世紀	極小皿。
2	図1-2	試験調査	口ク口	8.1×5.1×2.7	1/2	16世紀	極小皿。
3	図1-3	試験調査	口ク口	(7.7)×(5.2)×2.1	1/3	16世紀	極小皿。
4	図1-4	試験調査	口ク口	10.2×8.0×2.6	1/2	16世紀	極小皿。
5	図16-1	C1号溝状土坑	口ク口	5.2×4.6×1.5	完形	16世紀	極小皿。
6	図16-2	C1号溝状土坑	口ク口	5.5×4.4×1.4	完形	16世紀	極小皿。
7	図16-3	C1号溝状土坑	口ク口	5.2×4.2×1.7	完形	16世紀	極小皿。
8	図16-4	C1号溝状土坑	口ク口	4.7×4.1×1.9	完形	16世紀	極小皿。
9	図16-5	C1号溝状土坑	口ク口	5.5×4.7×1.6	完形	16世紀	極小皿。
10	図16-6	C1号溝状土坑	口ク口	5.0×4.1×1.6	完形	16世紀	極小皿。
11	図16-7	C1号溝状土坑	口ク口	4.9×4.2×1.9	完形	16世紀	極小皿。
12	図16-8	C1号溝状土坑	口ク口	5.0×4.2×1.6	完形	16世紀	極小皿。
13	図16-9	C1号溝状土坑	口ク口	5.3×4.4×1.5	完形	16世紀	極小皿。
14	図16-10	C1号溝状土坑	口ク口	5.3×4.7×2.0	完形	16世紀	極小皿。
15	図16-11	C1号溝状土坑	口ク口	5.5×4.1×2.0	完形	16世紀	極小皿。
16	図16-12	C1号溝状土坑	口ク口	5.7×5.0×2.0	完形	16世紀	極小皿。
17	図16-13	C1号溝状土坑	口ク口	5.9×4.3×1.9	完形	16世紀	極小皿。
18	図16-14	C1号溝状土坑	口ク口	6.0×5.2×1.6	完形	16世紀	極小皿。
19	図16-15	C1号溝状土坑	口ク口	5.8×4.3×1.8	完形	16世紀	極小皿。
20	図16-16	C1号溝状土坑	口ク口	5.8×2.1×4.8	完形	16世紀	極小皿。
21	図16-17	C1号溝状土坑	口ク口	6.0×5.1×1.7	完形	16世紀	極小皿。
22	図16-18	C1号溝状土坑	口ク口	6.4×4.3×2.0	完形	16世紀	極小皿。
23	図16-19	C1号溝状土坑	口ク口	(6.8)×4.4×2.5	完形	16世紀	極小皿。

中世研究プロジェクトチーム

24	図16-20	C1号溝状土坑	口タロ	7.4×5.5×2.4	完形	16世紀	極小皿。
25	図16-21	C1号溝状土坑	口タロ	7.4×5.1×2.2	完形	16世紀	極小皿。
26	図16-22	C1号溝状土坑	口タロ	7.6×6.0×2.6	完形	16世紀	極小皿。
27	図16-23	C1号溝状土坑	口タロ	7.4×5.7×2.4	完形	16世紀	極小皿。
28	図16-24	C1号溝状土坑	口タロ	9.3×6.0×2.6	完形	16世紀	小皿。
29	図16-25	C1号溝状土坑	口タロ	(8.4)×(6.5)×2.7	完形	16世紀	小皿。
30	図16-26	C1号溝状土坑	口タロ	9.5×6.7×2.8	完形	16世紀	小皿。
31	図16-27	C1号溝状土坑	口タロ	9.8×7.2×2.7	完形	16世紀	小皿。
32	図16-28	C1号溝状土坑	口タロ	7.8×6.0×3.0	完形	16世紀	小皿。
33	図16-29	C1号溝状土坑	口タロ	9.3×2.7×6.6	完形	16世紀	小皿。
34	図16-30	C1号溝状土坑	口タロ	8.8×6.6×3.0	完形	16世紀	小皿。
35	図16-31	C1号溝状土坑	口タロ	(8.7)×6.2×3.2	完形	16世紀	中皿。
36	図16-32	C1号溝状土坑	口タロ	(9.7)×6.4×3.3	完形	16世紀	中皿。
37	図18-1	C1号溝状遺構	口タロ	(6.9)×(5.0)×2.3	1/2	16世紀	小皿。
38	図18-2	C1号溝状遺構	口タロ	(6.9)×(4.8)×2.3	1/4	16世紀	小皿。
39	図18-3	C1号溝状遺構	口タロ	(9.2)×6.3×3.0	1/2	16世紀	中皿。
40	図18-4	C1号溝状遺構	口タロ	(8.1)×(5.2)×3.0	1/4	16世紀	中皿。

及川宮ノ下遺跡(文献番号 厚木市98)

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				備考
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	
1	第61図-1	第1号住居址	口タロ	(8.0)×(6.1)×1.7	1/2	—	
2	第61図-2	第1号住居址	口タロ	(7.8)×6.2×1.8	2/3	—	
3	第61図-3	第1号住居址	口タロ	9.0×7.1×1.6	ほぼ完形	—	
4	第61図-4	第1号住居址	口タロ	8.3×6.1×1.9	3/4	—	
5	第61図-5	第1号住居址	口タロ	8.8×7.0×2.1	3/4	—	
6	第109図C-1-1	積石	口タロ	(8.9)×(6.0)×2.9	—	—	内外面十字状付着物。
7	第109図C-1-2	積石	口タロ	(9.0)×(5.0)×2.5	—	—	

神奈川県県央地域の中世遺跡（5）

8	第109図C-1-3	積石	口タロ	(9.0)×(6.0)×3.1	—	—	内外面すす状付着物。
9	第109図C-1-4	積石	口タロ	—×(5.0)×—	—	—	
10	第109図C-1-5	積石	口タロ	7.5×5.4×1.7	—	—	内面すす状付着物。

及川柳流遺跡（文献番号 厚木市99）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第34図-91	第1区	口タロ	7.5×5.0×2.0	完形	—	
2	第34図-92	第1区	口タロ	5.6×5.0×1.5	完形	—	
3	第34図-93	第1区	口タロ	(8.0)×4.1×2.0	1/2	—	
4	第34図-94	第1区	口タロ	(7.0)×4.1×2.0	1/2	—	

裏田中村遺跡（文献番号 厚木市100）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第18図-7	S X-0 2	口タロ	(8.2)×(6.2)×1.6	小片	—	
2	第18図-8	S X-0 2	口タロ	(9.2)×(6.4)×1.8	小片	—	
3	第27図-6	遺構外	口タロ	8.0×5.2×1.8	完形	—	

七沢神出遺跡（文献番号 厚木市102）

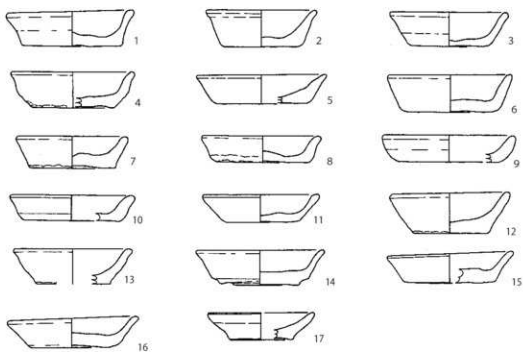
番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第7図-4	排水溝施設	口タロ	11.0×7.4×3.7	—	—	
2	第10図-3	1号壑穴状遺構	口タロ	11.7×7.6×3.9	—	—	
3	第10図-4	1号壑穴状遺構	口タロ	—×7.4×1.8	—	—	
4	第19図-2	遺構外	口タロ	12.6×7.6×3.8	—	—	
5	第19図-3	遺構外	口タロ	12.0×7.8×3.4	—	—	
6	第19図-4	遺構外	口タロ	9.8×7.2×2.5	—	—	

温水高坪遺跡（文献番号 厚木市103）

番号	報告書図番号	出土位置	かわらけ				
			成形	寸法 (cm)	残存状況	年代	備考
1	第206図	第2地点	口タロ	(9.1)×5.2×2.6	一部欠損	—	

東町二番遺跡

第9～11遺構面一括



愛甲宿遺跡 第2地区

SX-07



SD-03



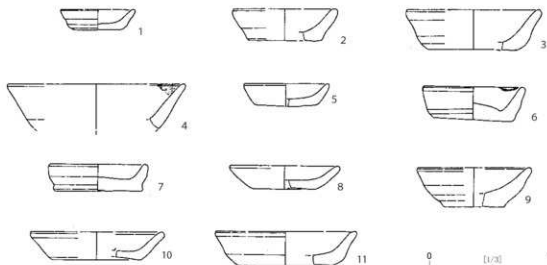
SX-02



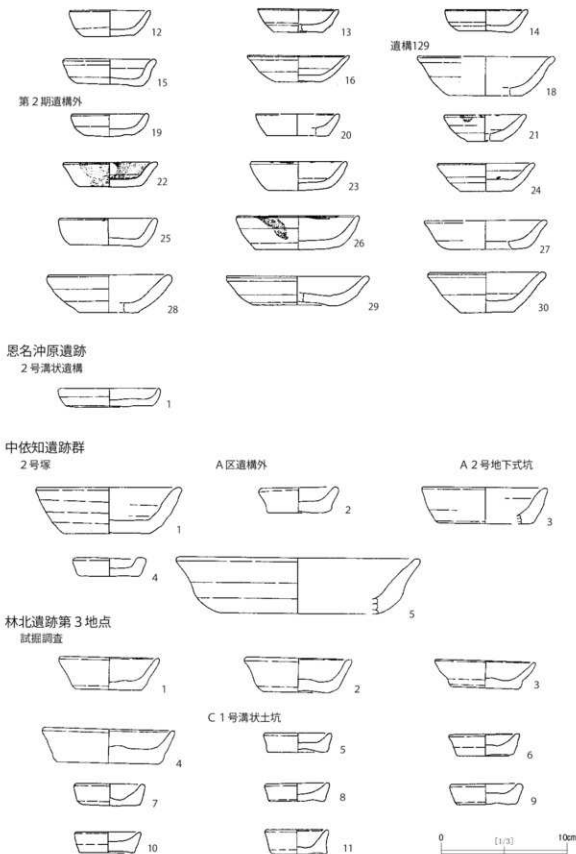
小野並木遺跡

遺構1

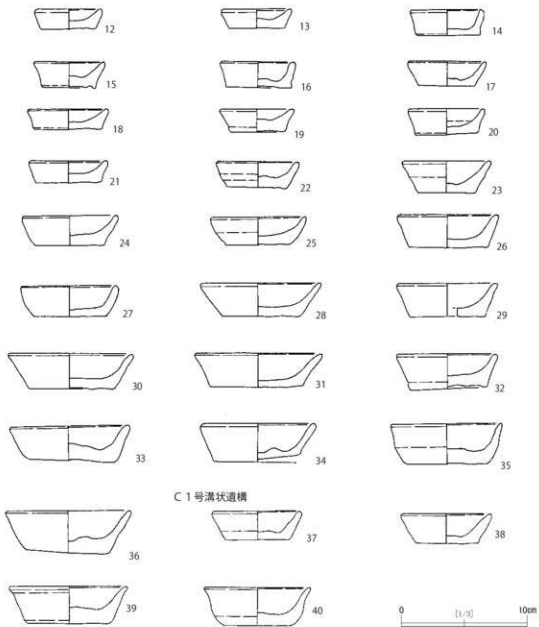
第1期焼土層



第1図 かわけ(1)



第2図 かむらけ(2)



第3図 かわらけ(3)

近世道状遺構の集成（5）

近世研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、2015年度より近世道状遺構の集成を行っている。

県内の遺跡が発見され、報告されている近世の道状遺構のデータを集成し、規模や構築方法等について検討していく予定である。今回は、横須賀市長岡西遺跡、藤沢市用田島居前遺跡、葛原下滝谷戸遺跡、茅ヶ崎市府沢配水池開運遺跡群大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡、逗子市池子遺跡群、厚木市中依知遺跡群、海老名市杉久保運谷遺跡、社家宇治山遺跡、河原口坊中遺跡、寒川町宮山中里遺跡を取り上げる。

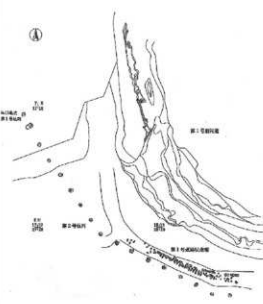
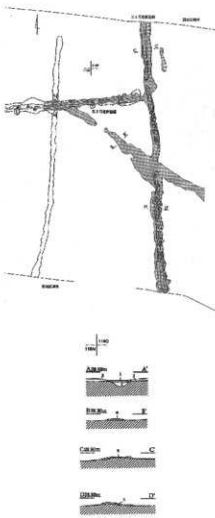
凡例

- ・遺構名は報告書の記載に基づく。
- ・縮尺は平面図がスペースに収まるような大きさに適宜変えているため、図ごとに示した。
- ・断面図は報告書に複数記載されている例もあるが、一部を記載することにした。

資料№	遺跡名	遺構名	文献名
73	長岡西遺跡	第1号道	2002年『長岡西遺跡』かながわ考古学財団調査報告126
74	長岡西遺跡	第2号道	2002年『長岡西遺跡』かながわ考古学財団調査報告126
75	長岡西遺跡	第1号道状遺構	2002年『長岡西遺跡』かながわ考古学財団調査報告126
76	用田島居前遺跡	K1号道状遺構	2002年『用田島居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128
77	用田島居前遺跡	K2号道状遺構	2002年『用田島居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128
78	用田島居前遺跡	K3号道状遺構	2002年『用田島居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128
79	用田島居前遺跡	K4号道状遺構	2002年『用田島居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128
80	用田島居前遺跡	K5号道状遺構	2002年『用田島居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128
81	用田島居前遺跡	K6号道状遺構	2002年『用田島居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128
82	葛原下滝谷戸遺跡	K1号道状遺構	2003年『葛原滝谷戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告151
83	大島仲ノ谷遺跡	K1号道状遺構	1997年『芹沢配水池開運遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡』かながわ考古学財団調査報告28
84	大島仲ノ谷遺跡	K2号道状遺構	1997年『芹沢配水池開運遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡』かながわ考古学財団調査報告28
85	諏訪谷西遺跡	K1号道状遺構	1997年『芹沢配水池開運遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡』かながわ考古学財団調査報告28
86	諏訪谷西遺跡	K2号道状遺構	1997年『芹沢配水池開運遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡』かながわ考古学財団調査報告28
87	椎ノ木板遺跡	K1号道状遺構	1997年『芹沢配水池開運遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡』かながわ考古学財団調査報告28
88	椎ノ木板遺跡	K2号道状遺構	1997年『芹沢配水池開運遺跡群行谷遺跡・大島仲ノ谷遺跡・諏訪谷西遺跡・椎ノ木板遺跡』かながわ考古学財団調査報告28
89	池子遺跡群№8地点	第1号道状遺構	1997年『池子遺跡群V №8・9・10・13・14地点』かながわ考古学財団調査報告27
90	池子遺跡群№5地点	K-3号道状遺構	1998年『池子遺跡群VI №5・19地点』かながわ考古学財団調査報告36
91	池子遺跡群№5地点	K-5号道状遺構	1998年『池子遺跡群VI №5・19地点』かながわ考古学財団調査報告36
92	池子遺跡群№5地点	K-7号道状遺構	1998年『池子遺跡群VI №5・19地点』かながわ考古学財団調査報告36
93	池子遺跡群№3・4・5地点	第1号道状遺構	1998年『池子遺跡群VII №3・4・11地点』かながわ考古学財団調査報告36
94	中依知遺跡群	K1号道状遺構	2014年『中依知遺跡群（第2次調査）』かながわ考古学財団調査報告297
95	杉久保運谷遺跡	K1号道状遺構	2001年『杉久保運谷遺跡』かながわ考古学財団調査報告110
96	杉久保運谷遺跡	K3号道状遺構	2001年『杉久保運谷遺跡』かながわ考古学財団調査報告110
97	社家宇治山遺跡	K1号道状遺構	2011年『社家宇治山遺跡 第1分冊』かながわ考古学財団調査報告264
98	社家宇治山遺跡	K1号道状遺構	2011年『社家宇治山遺跡 第2分冊』かながわ考古学財団調査報告264
99	社家宇治山遺跡	K1号道状遺構	2011年『社家宇治山遺跡 第3分冊』かながわ考古学財団調査報告264
100	河原口坊中遺跡	K1号道状遺構	2014年『河原口坊中遺跡第1次調査 第1分冊 P19地区・P20地区・MS地区（1）』かながわ考古学財団調査報告304
101	河原口坊中遺跡	K1号道状遺構	2014年『河原口坊中遺跡第1次調査 第2分冊 P21地区・P22地区・MS地区（2）』かながわ考古学財団調査報告304
102	宮山中里遺跡	1号道状遺構	2016年『宮山中里遺跡 III』かながわ考古学財団調査報告317

資料No.	73	遺跡名	長岡西遺跡	資料No.	74	遺跡名	長岡西遺跡
所在地	横須賀市			所在地	横須賀市		
遺構名	第1号道			遺名	第2号道		
道幅	2.0～2.5m			道幅	0.4～1.4m		
年代				年代	17世紀（出土品の下限により）		
備考	検出長16.34m。硬化面がほぼ全面で検出。北東側と南西側とも調査区外に延びており、そのレベル差は0.26m。			備考	南東側と北西側は調査区外に延び、長さ56.1m。硬化面は南東側のみ約4～8cm確認。北西面と南東側のレベル差は0.27m。		
縮尺	(平面図) 1/150 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/500 (断面図) 1/150		

近世道状遺構の集成 (5)

資料No.	75	遺跡名	長岡西遺跡	資料No.	76	遺跡名	用田鳥居前遺跡
所在地	横須賀市			所在地	藤沢市		
遺構名	第1号道路状遺構			遺名	K1・2号道状遺構		
道幅	1.0～1.2m			道幅	(K1号) 0.4～1.0m (K2号a) 0.8m、(K2号b) 0.6～1.5m		
年代	17世紀中頃～18世紀			年代	宝永火山灰降灰以降		
備考	南東側に杭列、北東側に旧河通。検出長20.75m。北から南東に向けて曲がる。			備考	(K1号) 検出長23.4m、層厚0.05m (K2号a) 検出長8.7m以上、層厚0.05m (K2号b) 検出長14.0m、層厚0.05m		
							
縮尺	1/300			縮尺	(平面図) 1/300 (断面図) 1/100		

資料No.	77	遺跡名	用田鳥居前遺跡	資料No.	78	遺跡名	用田鳥居前遺跡
所在地	藤沢市			所在地	藤沢市		
遺構名	K3号道状遺構			遺名	K4号道状遺構		
道幅	0.2~0.4m			道幅	1.0m		
年代				年代	17世紀~現代		
備考	残存長約19m、層厚0.1m、北から南へ緩やかに傾斜している。硬化面は2枚みられる。			備考	残存長21m、層厚0.1m、現道直下にある。硬化面は3枚みられ、2枚目と3枚目の間には宝永火山灰がみられる。		
縮尺	(平面図) 1/250 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/400 (断面図) 1/50		

近世道状遺構の集成 (5)

資料No.	79	遺跡名	用田鳥居前遺跡	資料No.	80	遺跡名	用田鳥居前遺跡
所在地	藤沢市			所在地	藤沢市		
遺構名	K5号道状遺構			遺名	K6号道状遺構		
道幅	0.2～0.9m			道幅	0.4～0.9m		
年代				年代			
備考	残存長15m、層厚0.2～0.3m。硬化面は2枚みられ、新旧関係が認められる。			備考	残存長10.5m、層厚0.05m。中世溝が埋没したのちに構築されている。		
縮尺	(平面図) 1/150 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/100 (断面図) 1/50		

資料No.	81	遺跡名	島原産谷遺跡 島原下産谷戸遺跡	資料No.	82	遺跡名	芹沢配水池関連遺跡群 大島仲ノ谷遺跡
所在地	藤沢市			所在地	茅ヶ崎市		
遺構名	K1号道状遺構			遺名	K1号道状遺構		
道幅	0.5～1.1m			道幅	0.6～1.0m		
年代				年代	17世紀～18世紀		
備考	残存長4.7m、層厚0.05m。調査区北壁から延びているがかなり削平を受けており、途中で消滅している。			備考	検出長257.6m。硬化面は層厚8～15cmの間に3枚ある。両脇の側溝は幅0.4m程、深さ20～40cm。ほぼ現道直下に位置。		
縮尺	(平面図) 1/100 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/2000 (断面図) 1/100		

近世道状遺構の集成 (5)

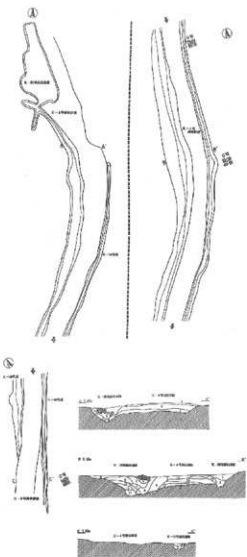
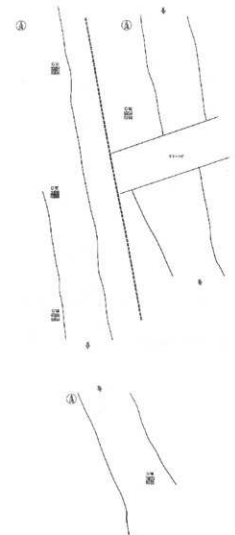
資料No.	83	遺跡名	芹沢配水池関連遺跡群 大島仲ノ谷遺跡	資料No.	84	遺跡名	芹沢配水池関連遺跡群 諏訪谷西遺跡
所在地	茅ヶ崎市			所在地	茅ヶ崎市		
遺構名	K2号道状遺構			遺名	K1号道状遺構		
道幅	約233.5m			道幅	0.7~1.0m		
年代	~17世紀			年代	17世紀前半~18世紀初頭		
備考	検出長257.6m、第1号道状遺構下位から検出。硬化面は層厚10~14cmの間に2枚ある。側溝は幅0.3m程、深さ20cm程。切り通し状。			備考	検出長70.6m。硬化面は層厚25~45cmの間に6枚ある。側溝は幅0.5~0.6m、深さ20~30cm。		
縮尺	(平面図) 1/2000 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/1500 (断面図) 1/50		

資料No.	85	遺跡名	芹沢配水池関連遺跡群 諏訪谷西遺跡	資料No.	86	遺跡名	芹沢配水池関連遺跡群 椎ノ木坂遺跡
所在地	茅ヶ崎市			所在地	茅ヶ崎市		
遺構名	K2号道状遺構			遺名	K1号道状遺構		
道幅	0.3～0.5m			道幅	0.6～1.5m		
年代	～17世紀前半			年代	～17世紀前半		
備考	検出長 40.5m、第1号道状遺構下位から検出。硬化面は層厚7～10cmの間に2枚ある。側溝は幅0.5～0.6m、深さ20cm以下。切り通し状。			備考	検出長 29.0m。硬化面は厚さ7～25cmの間に2枚ある。側溝は幅0.28～0.3m、深さ8cm程。わだちの可能性あり。		
縮尺	(平面図) 1/1500 (断面図) 1/50			縮尺	(平面図) 1/400 (断面図) 1/100		

資料No.	87	遺跡名	池子遺跡群 No. 8地点	資料No.	88	遺跡名	池子遺跡群 No. 5地点
所在地	逗子市			所在地	逗子市		
遺構名	第1号道路状遺構			遺名	K-1号道状遺構		
道幅				道幅			
年代	～昭和初期（「土地法典」1930年刊）			年代			
備考	伝春日社跡に関連するピット群の東側で確認。第1号旧河道に沿う。			備考	検出長16m、層厚0.1m、K-10号溝に伴う。南側のみ検出。溝状遺構および道状遺構として同時の機能が想定。		
縮尺	(平面図) 1/350 (断面図) 1/150			縮尺	(平面図) 1/150 (断面図) 1/50		

資料No.	89	遺跡名	池子遺跡群 No. 19 地点	資料No.	90	遺跡名	池子遺跡群 No. 19 地点
所在地	逗子市			所在地	逗子市		
遺構名	K-2号道状遺構			遺名	K-3号道状遺構		
道幅				道幅			
年代				年代			
備考	K-7号溝状遺構に付属する施設として機能。			備考	K-7号溝状遺構に付属する施設として機能。		
縮尺	(平面図) 1/250 (断面図) 1/500			縮尺	1/200		

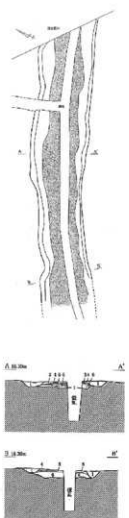
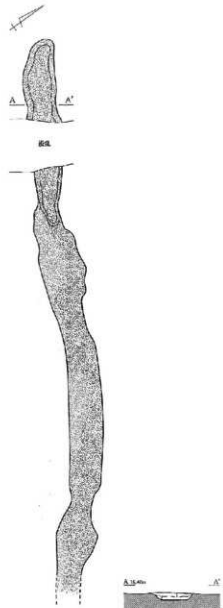
近世道状遺構の集成 (5)

資料No.	91	遺跡名	池子遺跡群 No. 5 地点	資料No.	92	遺跡名	池子遺跡群 No. 5 地点
所在地	逗子市			所在地	逗子市		
遺構名	K-4号道状遺構			遺名	K-5号道状遺構		
道幅	1.5～1.6m			道幅	4.0～5.8m		
年代				年代			
備考	検出長58m、層厚0.2～0.3m、K-36・50号溝状遺構を西岸および東岸の側溝として付属させ、通路として機能。			備考	検出長57m、ほぼ直線で延びる硬化面として検出。旧海軍接収直後の造成に関わる可能性が高いため、その範囲のみ掲載。		
							
縮尺	(平面図) 1/300 (断面図) 1/100			縮尺	1/300		

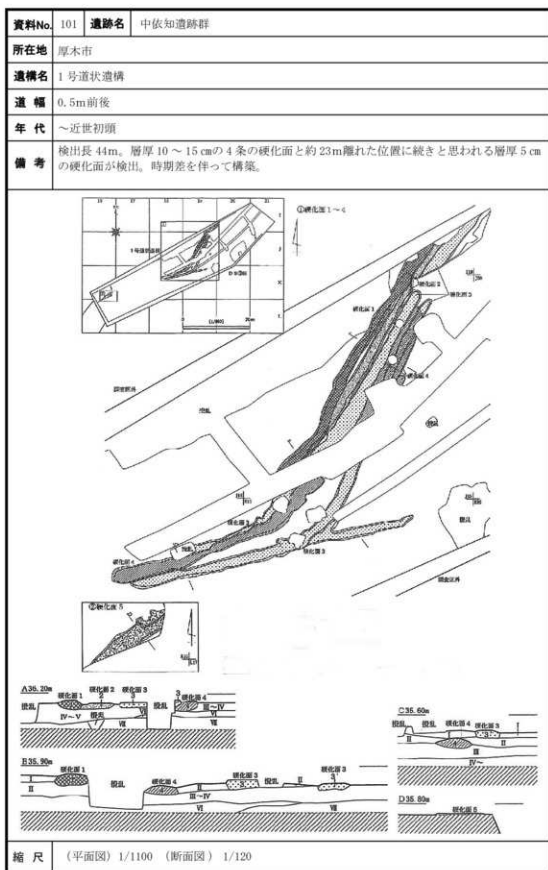
資料No.	93	遺跡名	池子遺跡群 No. 3・4・5 地点	資料No.	94	遺跡名	杉久保進谷遺跡
所在地	逗子市			所在地	海老名市		
遺構名	第1号道状遺構			遺名	K1号道状遺構		
道幅	0.3～0.5m			道幅	0.8m以上		
年代				年代			
備考	検出長9.6m、東西両端とも調査区外に延びている。踏み締めにより部分的に硬化した平場を道と認定。			備考	検出長19.3m、硬化面は確認されていないが、底部に走行方向と直交する方向に長軸を採る長楕円形の土坑がある。		
縮尺	(平面図) 1/100 (断面図) 1/100			縮尺	1/120		

近世道状遺構の集成 (5)

資料No.	95	遺跡名	社家宇治山遺跡	資料No.	96	遺跡名	社家宇治山遺跡
所在地	海老名市			所在地	海老名市		
遺構名	CK1号道状遺構			遺名	CK1号道状遺構		
道幅	1.2～2.5m			道幅	1.2～2.4m		
年代				年代	17世紀～18世紀		
備考	検出長 17.2m。溝状に掘り込まれた道。			備考	検出長 35.7m。硬化面は2面確認されており2時期に渡って使用されていたと思われる。		
縮尺	(平面図) 1/200 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/350 (断面図) 1/100		

資料No.	97	遺跡名	社家宇治山遺跡	資料No.	98	遺跡名	社家宇治山遺跡
所在地	海老名市			所在地	海老名市		
遺構名	CK1号道状遺構			遺名	CK2号道状遺構		
道幅	1.8~2.4m			道幅	0.4~0.9m		
年代				年代			
備考	検出長12.2m。硬化面の両側は溝状に窪んでおり宝永スコリアを多く含む層が堆積している。			備考	検出長11.3m。硬化面は層厚10cm前後。東側はCK2号竪穴状遺構に切られる。		
							
縮尺	(平面図) 1/150 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/150 (断面図) 1/100		

資料No.	99	遺跡名	河原口坊中遺跡	資料No.	100	遺跡名	河原口坊中遺跡
所在地	海老名市			所在地	海老名市		
遺構名	K1号道状遺構			遺名	K1号道状遺構		
道幅				道幅	約4m		
年代	19世紀以前 (出土品の下限により)			年代			
備考	硬化面は層厚30cmの間に3枚または4枚ある。海老名市道が整備される以前の道路の一部と考えられる。			備考	硬化面は層厚2cm前後で2~4層重なっている。		
縮尺	1/300			縮尺	(平面図) 1/500 (断面図) 1/500		



近世道状遺構の集成 (5)

資料No.	102	遺跡名	御屋敷添遺跡	資料No.	103	遺跡名	御屋敷添遺跡
所在地	厚木市			所在地	厚木市		
遺構名	第1号道状遺構			遺名	第2号道状遺構		
道幅	0.8m			道幅	1.1m		
年代				年代			
備考	検出長 2m。層厚は見られなかったが、中央部に顕著な硬化面が形成。			備考	検出長 2m。硬化面は層厚 0.4m。堀方の中央部に硬化面を形成。		
縮尺	(平面図) 1/50 (断面図) 1/50			縮尺	(平面図) 1/50 (断面図) 1/50		

資料No.	104	遺跡名	宮山中里遺跡	資料No.	105	遺跡名	宮山中里遺跡
所在地	高座郡寒川町			所在地	高座郡寒川町		
遺構名	1号道状遺構			遺名	2号道状遺構		
道幅	1.2m			道幅	1.2m		
年代	宝永火山灰降灰以前～明治期			年代	～宝永火山灰降灰期		
備考	検出長32.5m。硬化面は層厚最大15cmの間に3枚ある。			備考	検出長32.5m。第1号道状遺構下位から検出。硬化面は層厚最大10cmの間に2枚。1号溝状遺構、3号溝状遺構は測溝の可能性。		
縮尺	(平面図) 1/200 (断面図) 1/100			縮尺	(平面図) 1/200 (断面図) 1/100		

研究紀要25

かながわの考古学

発行日 2020（令和2）年3月19日
発行 公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 神奈川県横浜市中区中村町3-191-1
TEL : 045-252-8689 FAX : 045-261-8162
<http://www.kaf.or.jp>
印刷 アンクベル・ジャパン株式会社